

平成 2 0 年度  
指定管理者による公の施設の管理運営状況

平成 2 1 年 1 0 月

企画調整部

- 1 福島県文化センター【(財)福島県文化振興事業団】・・・1
- 2 ふくしま海洋科学館【(財)ふくしま海洋科学館】・・・4
- 3 クライミングウォール(あづま総合運動公園内)  
【(財)福島県都市公園・緑化協会】・・・6

生活環境部

- 4 福島県男女共生センター【(財)福島県青少年育成・男女共生機構】・・・7

保健福祉部

- 5 太陽の国病院【(社福)福島県社会福祉事業団】・・・10
- 6 太陽の国厚生センター等【(社福)福島県社会福祉事業団】・・・12
- 7 勤労者身体障がい者体育館【(社福)福島県社会福祉事業団】・・・14
- 8 福島県からまつ荘【(社福)福島県社会福祉事業団】・・・16
- 9 障がい児・者福祉8施設【(社福)福島県社会福祉事業団】・・・18
- 10 福島県点字図書館【(社)福島県盲人協会】・・・22

商工労働部

- 11 福島県中小企業振興館(起業支援室を除く)【(財)福島県産業振興センター】・・・26
- 12 福島県中小企業振興館(起業支援室)【NPO 福島県ベンチャー・SOHO・テレワーカー共働機構】・・・29
- 13 福島県ハイテクプラザ(一部)【(財)福島県産業振興センター】・・・32
- 14 福島県観光物産館【(財)福島県観光物産交流協会】・・・34
- 15 福島県産業交流館【(財)福島県産業振興センター】・・・36
- 16 天鏡閣・国民宿舎翁島荘【(財)福島県観光物産交流協会】・・・39

農林水産部

- 17 ふくしま県民の森【(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団】・・・42
- 18 福島県総合緑化センター【(財)福島県都市公園・緑化協会】・・・44
- 19 福島県昭和の森【(財)猪苗代町振興公社】・・・47

土木部

- 20 小名浜港マリーナ施設【小名浜マリーナ(株)】・・・49
- 21 翁島港マリーナ施設【マリーナ・レイク猪苗代(株)】・・・51
- 22 プレジャーボート用指定泊地・指定施設  
(江名港、久之浜港、豊間漁港、勿来漁港、四倉漁港)【いわき市漁業協同組合】・・・53
- 23 プレジャーボート用指定泊地(小名浜港)【小名浜漁業協同組合】・・・55
- 24 プレジャーボート用指定泊地(中之作港)【中之作漁業協同組合】・・・57
- 25 プレジャーボート用指定施設(釣師浜漁港、真野川漁港、請戸漁港)  
【相馬双葉漁業協同組合】・・・59
- 26 あづま総合運動公園【(財)福島県都市公園・緑化協会】・・・61
- 27 福島空港公園【(財)福島県都市公園・緑化協会】・・・65
- 28 逢瀬公園【(財)福島県都市公園・緑化協会】・・・68
- 29 県営住宅等(県北・県中・会津・いわき地区)【NPO 循環型社会推進センター】・・・71

教育庁

- 30 福島県自然の家(4施設)【(財)福島県自然の家】・・・75
- 31 福島県文化財センター白河館【(財)福島県文化振興事業団】・・・78

|      |                  |        |                   |
|------|------------------|--------|-------------------|
| 施設名  | 福島県文化センター        | 指定管理者名 | (財)福島県文化振興事業団     |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 企画調整部文化スポーツ局文化振興課 |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 来館者サービスの向上

#### (1) 安全で安心できる危機管理体制の充実

・福島県文化センター施設管理規程「同施設安全管理マニュアル」について全職員に周知徹底を図るとともに、不審者侵入を想定した防犯訓練、大ホール火災発生を想定した「総合消防訓練」、AEDを含む普通救命講習会、地震発生から火災を想定した「総合消防訓練」を実施した。

#### (2) 平等で質の高いサービスの提供

・年間の開館日数を350日に拡大し、また、前年度に引き続き1日の利用時間を午前8時30分から午後10時に拡大し利用者の利便を図った。ただし、小ホールは音響改修工事が実施されたので、開館日数は312日。

(休館日) H17:月曜日

H18～20:利用者から申し出があれば臨時に開館

(開館時間) H17:9:00～21:30

H18～20:8:30～22:00

・地元報道機関との共催事業を積極的に展開し、すぐれた芸術文化に触れる機会を提供した。  
(ウクライナのキエフオペラ、宝塚公演など)

・県内各地で開かれる文化事業の入場券を受託販売し、県民サービスの向上を図った。

・講師派遣や巡回講習会を実施し、館外利用者に対するサービスを拡大した。

・歴史資料館友の会など、県民参加型事業を行った。

#### (3) 県民ニーズのフィードバック

・施設利用者及びホームページ上で「利用者アンケート」を実施し、分析・検討のうえ、受講者のレベルに応じた分かりやすい古文書講座の新規開設など実現できることについて速やかに対応した。また、自主文化事業や古文書講座・フィルム上映会などの事業毎でアンケートを実施し、利用者の苦情や要望をもとに改善点を検討し、大ホールの空調で寒いと感じる来館者に対し、膝掛けの無料貸出など可能な限り速やかに対応した。

・大ホール利用者による「利用者懇談会」を開催し、利用者の生の声を聴取し運営改善に役立てた。

#### (4) コンプライアンスの徹底

法令順守はもちろん、公益法人職員として公正・公平な業務執行に努めた。

#### (5) 個人情報保護の徹底

施設利用者、ダイレクトメール会員登録者、歴史資料館資料寄託者等の文化センターが有する個人情報について、個人情報保護法及び事業団が定める「個人情報の保護に関する規程」に基づき適切に管理した。

#### (6) 顧客満足度アップのための職員のスキルアップ

事業団職員に対し「セクハラ防止セミナー研修」(64名)を実施した。また、全国公立文化施設協会主催の研修や国立公文書館主催のセミナー等に職員を参加させ、28種目・延べ110名が受講した。

#### (7) 長期的視野に立った施設機能の維持

・施設の維持保全の基本となる日常点検を徹底し、異常の早期発見に努めた。

・建物・設備が正常に機能するため「建物設備総合保守管理業務」、「清掃業務」、「警備業務」や舞台・庭園などは外部専門業者に再委託し維持に努めた。

#### (8) 経費の縮減

・来館者・利用者に影響のない照明の消灯、及びクールビズ・ウォームビズを徹底し、燃料使用量を約3%削減した。

#### (9) 環境コストに配慮した施設・設備維持

・「福島県文化センター省エネルギー・省資源マニュアル」に基づき再生紙を購入し、用紙の節約と経費の節減に努めた。

・自動車使用を控え、自転車等の利用を推進した。

・利用者に対しては利用終了後の空調や照明等の節減、トイレの節水に協力を要請した。

### 2 学校教育による施設の利用促進

・県演劇連盟県北支部と共催の舞台技術ワークショップを開催、学校関係利用の舞台・展示作業への協力、学校単位の利用の際に文化系サークルの練習利用を呼びかけた。ほか、児童・生徒の

創作活動を奨励することを目的に、県内高校生の作品を展示した「ヤングアートコーナー」を実施した。留学生などの職場体験インターンシップ事業も受け入れた。

・歴史資料館に学校行事での児童・生徒の見学を受け入れたほか、総合学習で歴史資料を利用した授業への協力、大学の博物館学外実習を受け入れた。

### 3 管理経費の節減（単位：千円）

| 項目    | 実績      | 実績      | 実績      | 実績      | -        | 備考 |
|-------|---------|---------|---------|---------|----------|----|
| 人件費等  | 355,095 | 212,225 | 179,674 | 181,005 | -174,090 |    |
| 直接事務費 | 128,840 | 111,577 | 141,607 | 120,019 | -8,821   |    |
| 計     | 483,935 | 323,802 | 321,281 | 301,024 | -182,911 |    |

役員報酬等を人件費に計上している。

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

・危機管理体制の充実のため、不審者侵入を想定した防犯訓練を実施した。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

平成20年度の年間利用者数は、文化会館で308,649人（平成19年度：338,126人）と減少しているが、これは19年度に全国的なイベントがあったためであり、30万人の大台を維持していることは評価できる。また、歴史資料館で13,096人（平成19年度：10,923人）と前年度より増加しており、館の存在を積極的にPRするとともに、関心が高い題材についてのイベントを行うなど、利用者増に向けた取り組みが行われていることが評価できる。

### 1 来館者サービスの向上

平成18年度以降、開館日及び利用時間を拡大し、県民サービスの向上を図っていることは評価できる。

18年度は展示室利用者、19・20年度は大ホール利用者を対象とした「利用者懇談会」を開催し、利用者の生の声を聴取したことは評価できる。今後も、そのような場を数多く設けて、県民の声をより多く事業運営に生かしていくことが重要である。また、アンケート調査を実施し、県民ニーズの把握等に努めているが、アンケート調査のフィードバックを行っており、利用者の満足度の分析などを通じてサービス向上に取り組んでいることは評価でき、今後、さらにアンケート調査の結果を生かしていくことが課題である。

重油価格の高騰による光熱水費の増加などがあったが、燃料使用量を削減するなど、効率的な運営に向けた取り組みが行われた。

### 2 学校教育による施設の利用促進

平成20年度の学校教育による文化会館施設利用は54件で、利用者数は36,234人と昨年に比べ、利用件数、利用者がともに減少したが、継続的な利用促進に努めていると評価できる。

また、県演劇連盟県北支部と共催の舞台技術ワークショップを開催するなど、学校教育における施設の利用が図られた。

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

・危機管理体制の充実のため、不審者侵入を想定した防犯訓練を実施したことは、施設の安心・安全な管理運営の面から評価できる。今後、様々な面で施設の安心・安全な運営等を充実させ、施設の優位性をアピールしていくべきと考える。

### 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数  | 報告要求項目・検査目的等              |
|----------|-------|-----|---------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1   | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。   |
| 月例報告     |       | 1 2 | 利用者数実績の確認を行った。            |
| 四半期報告    | ×     |     |                           |
| 定期立入検査   |       | 2   | 当初予算編成用資料（工事関係調査、管理運営費調査） |
| 不定期立入検査  |       | 3   | 管理運営状況（植栽、清掃等）及び小修繕の確認    |
| 事業報告書    |       | 1   | 管理運営全般、収支決算状況の確認          |
| 外部委員等評価  | ×     |     |                           |
| その他      |       |     |                           |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

平成20年度の取組み実績を踏まえ改善点等を検討し、主に下記の点について、より充実した取組みを行いたい。

#### 1 来館者サービスの向上

- (1) インフルエンザ等、感染症対策を含め、安全で安心できる危機管理体制の更なる充実
- (2) 利用者の意見等を踏まえた平等で質の高いサービスの提供
- (3) 顧客満足度を向上させるための職員のスキルアップ
- (4) 効率的な運営等による経費の縮減
- (5) 環境コストに配慮した施設・設備維持

#### 2 学校教育による施設の利用促進

平成20年度に引き続き、施設利用の促進に取り組むこととしたい。

|      |                  |        |                   |
|------|------------------|--------|-------------------|
| 施設名  | ふくしま海洋科学館        | 指定管理者名 | (財)ふくしま海洋科学館      |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 企画調整部文化スポーツ局生涯学習課 |

### 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

#### 1 来館者サービスの向上

以下について、指定管理者が直接実施・整備したが、ガソリン価格の高騰とそれに続く不況等の影響から、入館者数は前年度対比13パーセント減の871,666人となった。

- (1) 年中無休営業及び超繁忙期等の開館時間延長の継続
- (2) 内臓が観覧可能なシーラカンスの標本展示及びミュージアムショップゴンベッサの併設
- (3) オセアニックガレリアの展示更新（伝馬船の製法・漕法の伝承を目指した「プロジェクト伝」の活動紹介パネル及び弁財天ウナギプロジェクトの活動紹介ブースの新設等）
- (4) 様々な企画展や季節ごとの多彩なイベントの実施
- (5) 「蛇の目ビーチ」、「ビオビオかっぱの里」、「海とあそぶ」、「いろいろ水族館」等を通じての「命の教育」活動の実施
- (6) 「福島県子育て応援パスポート事業」への協賛
- (7) 地元旅館ホテル等との連携による宿泊者限定入館券等の販売
- (8) ボランティアによるバックヤードツアー等の実施
- (9) 来館者アンケートや繁忙期の駐車場調査の実施
- (10) 繁忙期における第2ショップの設置やファーストフード販売

#### 2 学校教育による施設利用の促進

- (1) 教職員セミナーの実施 5回 99名（ 5回 141名）  
県内の小中学校の教員を対象に、総合学習などでの海洋科学館の利用方法などを紹介し、また、実際に体験してもらう。
- (2) 学校等のニーズに合わせた学習プログラムの実施
 

|             |     |        |   |     |         |
|-------------|-----|--------|---|-----|---------|
| ア 館内学習      | 33回 | 2,842名 | ( | 45回 | 2,504名) |
| イ ゲストティーチャー | 16回 | 892名   | ( | 16回 | 1,207名) |
| ウ ガイダンス     | 45回 | 2,842名 | ( | 39回 | 2,504名) |
| エ 環境教育事業    | 9回  | 164名   | ( | 5回  | 480名)   |
- (3) 移動水族館による海の生き物に触れる体験の提供 24ヶ所（ 25ヶ所）

#### 3 管理経費の節減

夜間電力とコ・ジェネの使い分け運転や温度の状況に応じた合理的な運転等により管理経費の節減に努めた。

| (単位：百万円) | 実績    | 実績    | 実績    | 実績    | -   | 備考 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 一般会計支出額  | 1,617 | 1,505 | 1,740 | 1,272 | 345 |    |
| 飼育展示費    | 244   | 340   | 184   | 188   | 56  |    |
| 企画営業費    | 204   | 184   | 158   | 176   | 28  |    |
| 学習交流費    | 211   | 96    | 98    | 105   | 106 |    |
| 一般管理費    | 309   | 303   | 321   | 332   | 23  |    |
| 施設管理費    | 616   | 506   | 452   | 448   | 168 |    |
| 租税公課     | 0     | 21    | 36    | 21    | 21  |    |
| その他      | 33    | 55    | 491   | 2     | 31  |    |

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

##### 1 来館者サービスの向上

- (1) 内臓が観覧可能なシーラカンスの標本展示及びミュージアムショップゴンベッサの併設
- (2) オセアニックガレリアの展示更新（伝馬船の製法・漕法の伝承を目指した「プロジェクト伝」の活動紹介パネル及び弁財天ウナギプロジェクトの活動紹介ブースの新設等）

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

来館者サービスの向上については、年中無休や開館時間延長などの弾力的な工夫が施される一方で、さらなる誘客に資するべく、アンケート調査などを実施し、来館者のニーズの把握に努めている。

また、経費削減に努めながら、学校教育による利用促進のようにほぼ例年どおりの事業内容を維持し、生涯学習の振興という設立目的に沿った管理運営がなされたと認められる。

しかし、県外の来館者が多く、そのアクセスは自家用自動車等に頼らざるを得ず、ガソリン価格の高騰や景気低迷が、平成20年度の入館者数に直接反映されたものと分析できる。

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

シーラカンスの内臓を見ることのできる世界的にも珍しい展示を実現させたことは、ふくしま海洋科学館の価値を一層高め、新規来館者のみならずリピーターにとっても来館の契機となることが期待される。

また、オセアニックガレリアの展示更新については、伝統文化による地域の振興に貢献するものであり、また弁財天ウナギプロジェクトの活動紹介については、環境保全活動の一つとして生涯学習を切り口とした環境問題という現代的な課題への取り組みである。これらは、社会情勢の変化に応じた当該施設の新たな可能性を開くものとして評価することができる。

## 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等              |
|----------|-------|----|---------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 事業計画書及び収支予算書              |
| 月例報告     |       | 12 | 入館者数、年間パスポート発券等、学校団体利用ほか  |
| 四半期報告    | ×     |    |                           |
| 定期立入検査   |       | 2  | 当初予算編成用資料(工事関係調査、管理運営費調査) |
| 不定期立入検査  |       | 1  | 物品調査                      |
| 事業報告書    |       | 1  | 事業報告書、収支計算書               |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                           |
| その他      |       |    |                           |

### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度の取組み(指定管理者)

### 1 来館者サービスの向上

年中無休営業をはじめ、ゴールデンウィークやお盆期間・クリスマス期間・夏休み期間中土日の開館時間の延長及びリピーター対策としての年間パスポートの発売、地元旅館・ホテルとの連携による宿泊者限定入場券の発売、デイクルーズ(観光遊覧船)との共通入場券の販売、福島県子育て応援パスポート事業への協賛、様々な企画展や年間を通して季節ごとの多彩なイベント等を引き続き実施し、来館者サービスの向上を図る。

### 2 学校教育による施設利用の促進

平成20年度と同程度以上の利用を図る。

### 3 管理経費の節減

引き続き、管理経費の節減を図る。

|      |                            |        |                   |
|------|----------------------------|--------|-------------------|
| 施設名  | クライミングウォール<br>(あづま総合運動公園内) | 指定管理者名 | (財)福島県都市公園・緑化協会   |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31           | 担当課名   | 企画調整部文化スポーツ局スポーツ課 |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

#### 1 サービスの向上

定期的に点検作業を実施し、安心して利用できる施設管理に努めた。また、初心者に対しては、能力に応じた指導を実施し、「楽しさ」と「技術習得方法」を伝授して愛好者の拡大を図った。

#### 2 普及活動

スポーツショップや関係機関と連携を図り、広報活動を行った。

#### 3 経費節減

昨年に引き続き消耗品費の節減を図った。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

・サービスの向上を図り、新たな利用者の発掘を行った。

施設利用者数            791人            882人            258人

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

#### 1 サービスの向上

新たに郡山市内に競合施設ができたことにより施設利用者数が大幅に減少したが、初心者への丁寧な指導に努めるなど、サービス向上に努めていると認められる。

#### 2 普及活動

積極的な広報活動が行われている。

#### 3 経費削減

少ない予算の中で、効率的に経費の節減を図ったものと評価する。

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

・体験講習会を実施したことにより、初体験の利用者が増加した。

### 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等     |
|----------|-------|----|------------------|
| 年度事業計画   | ×     |    |                  |
| 月例報告     | ×     |    |                  |
| 四半期報告    | ×     |    |                  |
| 定期立入検査   | ×     |    |                  |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                  |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                  |
| その他      | ×     |    |                  |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

### 4 平成21年度 of 取組み(指定管理者)

・愛好者が年々増加していることから、今後、小規模ではあるが、技術レベルに応じた競技大会を実施したい。



|      |                  |        |                      |
|------|------------------|--------|----------------------|
| 施設名  | 福島県男女共生センター      | 指定管理者名 | (財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 生活環境部人権男女共生課         |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 男女共同参画社会形成に係る理念の普及

ローカル・ナショナル・インターナショナルの視点に立って事業を実施している。

#### (1) 情報機能に関する事項

情報事業として、図書室の運営、広報誌「未来館NEWS」の発行（年4回）及びメールマガジンの発行（年12回）等による情報提供を行った。

また、調査研究事業として、新規に次の公募研究を実施した。

「外国人研修・技能実習制度」にかかわる男女平等の労働環境構築のための『アクションプラン』策定と派遣国の実態把握に関する国際比較・調査研究

坂本恵氏（福島大学行政政策学類准教授）ほか5名

併せて、継続研究（「女性関連事業系熟練職員の実践と分析～発揮されている能力要素とその相互関係」）については中間報告会（2月25日）を実施し、その他、地域課題委託調査研究として2件（「会津若松市における男女共同参画推進活動に関する課題とその解決方向について」「農村における女性のワークライフバランスに関する調査研究～女性労働とグリーンツーリズムの推進に着目して」）、職員による自主研究として1件（「福島県の高校生のジェンダー環境に関する調査」）の研究を実施した。

#### (2) 自立促進機能に関する事項

県内の市町村や地域の女性団体、NPO等との協働事業や、国内において多方面で活躍している講師による講演会を開催するなど、地域レベルや国レベルでの視点から男女共同参画社会について考えてもらうとともに、自らが行動するに資する機会を提供した。

##### ・協働事業の一例

「未来塾」：県内の男女共同参画社会の実現に向けて、地域で様々な活動に取り組む団体の方々幅広い見地からの研修を行う連続講座として実施した。

第 講座 ワーク・ライフ・バランス講座（講師：小室淑恵氏、福島市「育児休業促進事業」及び(財)21世紀職業財団「両立普及促進セミナー」との連携）

第 講座 藻谷浩介氏講演（福島市「男女共同参画トップセミナー」との連携）

#### (3) 交流機能に関する事項

男女共同参画社会の意識啓発や、県民相互の交流を促進するため毎年開催している未来館フェスティバルでは、県民参加企画として37イベント（パネルディスカッション、ワークショップ、パネル展示等）を実施した。また、実施に当たっては、地域では実施が困難な事業を実施し、さらに地域に出向くなどして、県の拠点施設としての機能を発揮した。

・参加人数 4,000人 4,500人 4,000人

### 2 施設利用者の声を反映させることによるサービスの向上

事業実施に際しては、利用者の意見・要望を取り入れた講座の開設（パソコン講座を1日コースと2日コースに分け開設）や受講希望者が多い講座を追加（複数回）開催したり（コーチング講座：1回の予定を3回開催）また、県内各地で開催するなどし、多くの県民の参加を得ると同時に各地域の団体との連携を強化できた。また、適時なテーマを捉えた講座等の実施に努めるとともに、経済界等、新たな領域との連携にも努めた。

### 3 効率的運営による経費の節減

18年度に3名、19年度に1名の職員削減を進めてきた中で、事務事業の見直し、課を横断してのワーキンググループ設置などにより、さらに効率的な事業実施に努め、19年度対比で超過勤務時間を削減し、人件費の抑制を図った。

また、燃料費の高騰に対応し、消耗品やエネルギー消費の節減を図るなど、管理関係経費の支出抑制に努め、県からの委託料が大幅に減額された中で、計画どおり事業を実施するとともに、単年度での黒字を確保した。

## 【経費比較表】

(単位 千円)

|                   | 契約額(A)  | 契約額     | 契約額(B)  | 差額 B - A |
|-------------------|---------|---------|---------|----------|
| 管理運営委託事業(人権男女共生課) | 215,021 | 208,074 | 187,042 | 27,979   |
| 1人件費              | 104,727 | 91,719  | 92,683  | 12,044   |
| 2管理費              | 84,396  | 85,302  | 74,632  | 9,764    |
| 3事業費              | 25,898  | 31,053  | 19,727  | 6,171    |
| 介護実習・普及事業(高齢福祉課)  | 39,446  | 37,461  | 38,547  | 899      |
| 委託料(補助金) 合計       | 254,467 | 245,535 | 225,589 | 28,878   |
| 一般財源              | 254,467 | 245,535 | 225,589 | 28,878   |

## 4 創意工夫による利用率の向上

- ・事業参加者や視察見学者に対する施設利用のPRを強化
- ・「ご宿泊割引カード」発行による宿泊リピーターの確保

|                   | 発行枚数   | 割引利用件数 |
|-------------------|--------|--------|
| 18.10.1 ~ 19.3.31 | 680枚   | 18件    |
| 19.4.1 ~ 20.3.31  | 1,737枚 | 65件    |
| 20.4.1 ~ 21.3.31  | 1,464枚 | 89件    |

- ・利用率(日数区分)

|      | 18年度  | 19年度  | 20年度  |
|------|-------|-------|-------|
| 研修施設 | 55.5% | 64.9% | 64.7% |
| 宿泊施設 | 32.2% | 37.5% | 36.0% |

年度前半は前年度を上回ったが、後半に景気悪化の影響を受けて利用率が低下し、最終的に19年度をわずかに下回る結果となった。

## 【平成20年に新たに取組んだ項目】

企業を対象に男女共同参画意識の醸成を図るため、企業内研修に男女共同参画やワーク・ライフ・バランス等の視点を採り入れることのアドバイスを行うとともに、企業向けの講座のカリキュラムを開発するため企業訪問を行った。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

## 1 男女共同参画社会形成に係る理念の普及

実施事業については、福島県男女共生センターの設置目的である男女共同参画社会の形成を促進するための情報提供・自立促進事業・交流促進事業を体系的かつ実践的に行っている。

事業の実施に際してはセンター(二本松市)での開催だけではなく、各団体(市町村、女性団体、NPO等)と連携し、その拠点地で行うなどアウトリーチ的な手法も取り入れ、広く県民に参加・参画してもらうことによる男女共同参画の理念の普及に努めている。

## 2 施設利用者の声を反映させることによるサービスの向上

事業の実施に関しては、要望に応じて追加開催するなど柔軟に対応している。

今後も県民のニーズを汲み取り、より多くの県民の事業参加を促進するとともに、ボランティアを積極的に活用し、利用者のサービス向上を図ることが望まれる。

## 3 効率的運営による経費の節減

経費の節減については、組織や業務の見直しによる人件費の削減、アウトソーシングの効率的な活用による管理運営費の削減等を行っている。

事業費については、事業規模を縮小しないように努めながら経費の削減を図っている。また、事業実施にあたっては、利用者の意見や要望を取り入れた事業を実施するなど、最小限の費用で最大限の効果をもたらすよう努めている。

今後も、効率的運営について、職員意識の向上を図りつつ、取組みを進めていく必要がある。

#### 4 創意工夫による利用率の向上

ソフト事業と施設管理（ハード事業）を一体的に受託している点を活かし、事業参加者及び施設利用者の双方に効果的にPRするなど、利用率の向上に努めている。

また、利用率の向上には、来館者に対する周知やホームページなどによる広報に加え、新規の団体や企業に対し積極的にPRし、利用を促進するという視点も必要である。

男女共同参画に関する目的で利用した宿泊者への利用料金の割引など、設置目的を踏まえたサービスの向上を図っており、今後も、男女共同参画の実践的拠点としての利用がより促進されるように努めていく必要がある。

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

センターにおける新たな取組みとして、企業へのアドバイスや企業訪問等を実施したことは、ワーク・ライフ・バランスなどが注目されている中において、男女共同参画社会の形成促進という目的に合致した非常に評価の高い取組みである。

今後も、企業に対するアプローチを積極的に進めるとともに、企業訪問等で得たニーズを踏まえた事業等を構築し、センターの利用促進等につなげることを期待する。

### 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                     |
|----------|-------|----|----------------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画の打合せ等を実施                     |
| 月例報告     |       | 12 | 事業実施（計画）内容、利用者数、利用料金実績、進行管理      |
| 四半期報告    |       | 4  | 使用目的別利用状況、備品使用状況、催事件数及び来場者数、予約状況 |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく内容確認                    |
| 不定期立入検査  |       | 2  | 未来館フェスティバルや国際シンポジウムにおいて実施状況確認    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、事業の実施状況、収支決算状況の確認         |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                                  |
| その他      |       |    |                                  |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし。

### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

事業実施に際しては、引き続き利用者の意見・要望を取り入れた講座の開設や内容、回数を検討する等し、多くの県民の参加を得ることができるよう、また市町村や女性団体、NPO等の関係団体との連携を強化するよう努めていく。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 太陽の国病院           | 指定管理者名 | (社福)福島県社会福祉事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H23.3.31 | 担当課名   | 保健福祉部保健福祉総務課   |

### 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

【診療実績】 カッコ内は平成19年度の実績

延患者数

- ・入院 4,680人（5,355人）
- ・外来 24,743人（28,248人）

1日平均

- ・入院 12.8人（14.6人）
- ・外来 101.0人（115.3人）

【取組実績】

入院診療

- ・21病床を稼働させ、入院患者一人一人にゆとりあるスペースを提供するとともに、プライバシーの確保に努めた。
- ・入院患者と看護師の比率について7対1を維持し、夜間看護も2名体制とするなど、より質の高い、きめ細やかな看護を提供した。

外来診療

- ・重度の障がいなどにより自覚症状を訴えられない患者に対しても、経験豊かな医師や看護師、その他専門的医療スタッフが対応し、適切な治療を提供した。

【管理経費】 カッコ内は平成19年度実績

委託料 120,152,000円（104,791,000円）

- ・職員にコスト意識を徹底し、効率的な予算の執行に努めた。

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

特になし

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

【診療実績の評価】

入院患者数、外来患者数とも前年度と比較して減少しているが、院長の交代等による一時的なものと思われる。一方で、地域一般の患者数、割合が増加しており、指定管理者の取組みが地域に浸透しているものと思われる。また、診断書等発行による文書料収入が増えているが、手数料の経理については、契約に基づき適切に行われている。

【取組実績等の評価】

病院業務については、基本協定に基づき適切に行われている。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

特になし

### 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等               |
|----------|-------|----|----------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 事業計画書に基づく具体的取組等の確認         |
| 月例報告     |       | 12 | 診療稼働状況（患者数、診療稼働額等） 手数料収入実績 |
| 四半期報告    | ×     |    |                            |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく成果確認検査            |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                            |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認           |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                            |
| その他      |       | 1  | 財政的援助団体としての監査の実施           |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

概ね適正に運営されており、指示事項等は特になし。

#### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

前年度と同様、引き続き、医療体制の充実と質の高い医療サービスの提供に取り組むほか、コスト意識の高揚と経費の削減に努める。

##### 【具体的取組】

地域の障がい者が安心してきめ細やかな治療が受けられるよう、外来及び入院診療体制の強化に努める。

障がいの重い患者であっても、付き添いすることなく安心して入院できるよう、サービスの充実に努める。

福祉サービスを必要とする方を対象として、訪問介護サービス事業の充実を図る。

職員の専門性を生かし、各種団体が実施する研修会等へ積極的な協力を行う。

経営改革事業実施計画書に則り、管理運営全般について創意工夫と資源の有効活用を図り、効率的な予算の執行に努める。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 太陽の国厚生センター等      | 指定管理者名 | (社福)福島県社会福祉事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H23.3.31 | 担当課名   | 保健福祉部保健福祉総務課   |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

#### 【貸館実績】 カッコ内は平成19年度の実績

##### 厚生センター

|      |        |      |        |
|------|--------|------|--------|
| ・研修室 | 使用許可件数 | 31件  | (23件)  |
|      | 使用者延人員 | 832人 | (552人) |
| ・宿泊室 | 使用許可件数 | 101件 | (119件) |
|      | 使用者延人員 | 879人 | (986人) |
| 野球場  | 使用許可件数 | 0件   | (0件)   |
|      | 使用者延人員 | 0人   | (0人)   |

19年度においては、盆踊り大会(3,004人参加)の会場として使用した。

中央公園 常時開放のため集計無し

#### 【取組実績】

##### 厚生センター

- ・県等の主催する研修に対し研修室を提供し、参加者の資質の向上に寄与した。
- ・太陽の国施設利用者とその家族のほか、施設実習者等に対して宿泊の提供を行った。
- ・研修参加者、視察者、地域住民等の来訪者に対する食堂事業を行った。

##### 野球場

- ・太陽の国施設利用者の運動場としての利用促進を図る他、地域イベントの会場として使用し、施設利用者と地域の方々との相互交流の場として活用した。

#### 【管理経費】 カッコ内は平成19年度実績

委託料 6,812,000円(7,160,000円)

- ・維持補修費等の管理経費については、必要最低限の予算で運営した。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

厚生センターの利用促進のため、積極的に地元企業を訪問し、企業内研修等需要の掘り起こしに努めた。

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

#### 【貸館実績の評価】

宿泊室の使用許可件数、使用者延人員とも減少傾向で推移している。研修室の使用許可件数、使用者延人員は前年度と比較すると増加したが、全体として使用料は減収のため、宿泊室、研修室ともにさらなる利用促進への取組みが必要であると思われる。

#### 【取組実績等の評価】

貸館業務については、基本協定に基づき適切に行われている。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

利用者の増加に努めており、事業団の主体的な利用促進への取組みが認められる。

### 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 事業計画書に基づく具体的取組等の確認 |
| 月例報告     |       | 12 | 使用状況、使用料収入実績       |
| 四半期報告    | ×     |    |                    |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく成果確認検査    |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認   |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                    |
| その他      |       | 1  | 財政的援助団体としての監査の実施   |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】  
概ね適正に運営されており、指示事項等は特にない。

#### 4 平成21年度 of 取組み (指定管理者)

【具体的取組】

厚生センター

- ・接客の向上に努め、利用者に安心して利用していただくとともに、満足して研修・実習等に  
取り組めるように努める。
- ・利用者へのアンケートを通じ、ニーズの把握に努め、施設運営に反映させる。

野球場

- ・グラウンドの除草及び周辺の清掃を行い、利用者に安全に気持ちよく利用してもらえるよ  
う努める。

中央公園

- ・太陽の国施設利用者や地域の方々に散策・憩いの場として利用してもらえるよう、花いっば  
い運動や草刈り等を実施し、環境美化に努める。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 勤労身体障がい者体育館      | 指定管理者名 | (社福)福島県社会福祉事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H23.3.31 | 担当課名   | 保健福祉部保健福祉総務課   |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

【貸館実績】 カッコ内は平成19年度の実績

使用許可件数 211件 (157件)

使用者延人員 13,987人(13,806人)

うち障がい者等 3,094人(4,012人)

【イベント会場としての利用実績】(カッコ内は平成19年度の実績)

上記使用者延人員の内数

花火・盆踊り大会 3,004人(3,635人)

太陽の国文化祭 2,561人(1,624人)

【取組実績】

障がい者スポーツ団体のほか、地域のスポーツサークル等への貸館を行い、スポーツを通しての福祉の推進に寄与した。

太陽の国施設利用者の健康維持・増進に寄与した。

地域のイベント会場として使用し、太陽の国施設利用者と地域の方々との相互交流の場として活用した。

【管理経費】 カッコ内は平成19年度実績

委託料 2,291,000円(2,453,000円)

・維持補修費等の管理経費については、必要最低限の予算で運営した。

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

利用者のニーズにより、フットサルゴール等を購入し、利用の促進に努めた。

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

【貸館実績の評価】

使用者延人員について、ここ数年、わずかであるが増加傾向にあり、指定管理者の取組みが地域に浸透してきているものと思われる。

【取組実績等の評価】

貸館業務については、基本協定に基づき適切に行われている。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

10月～3月では前年の同期と比較し807人、49件多い一般の方の利用があるなど成果がある。

### 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 事業計画書に基づく具体的取組等の確認 |
| 月例報告     |       | 12 | 使用状況、使用料収入実績       |
| 四半期報告    | ×     |    |                    |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく成果確認検査    |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認   |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                    |
| その他      |       | 1  | 財政的援助団体としての監査の実施   |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

概ね適正に運営されており、指示事項等は特にない。



#### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

##### 【目標】

勤労身体障がい者、太陽の国施設利用者、地域のスポーツ団体等の利用促進を図り、スポーツを通して心身のリフレッシュが図られるように努める。

##### 【具体的取組】

体育室、ロビー等の清掃を徹底し、利用者に気持ちよく利用してもらえるよう努める。

施設周辺の草刈り等を実施し、環境美化に努める。

利用者へのアンケートの実施により、利用者の声を施設運営に反映する。

##### 【その他】

災害時等の避難場所として、設置場所である西郷村と連携して地域に貢献する。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 福島県からまつ荘         | 指定管理者名 | (社福)福島県社会福祉事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H23.3.31 | 担当課名   | 保健福祉部社会福祉課     |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

- 1 入所実績(年間平均) ( )書きは19年度実績  
146.2人(148.4人)
- 2 取組実績
  - 利用者サービスの専門性の向上  
利用者一人一人の状態や、その家族の多様な意向に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援に努めた。
  - また、入所者へのサービス向上を図るため、歯磨きの習慣化を目指すことをテーマとしたQCサークル活動の充実を図った
  - 利用者の権利擁護の尊重  
個人としての権利や尊厳を守るために、苦情や要望等を気兼ねなく申し出られるよう環境づくりを進め、苦情解決制度の充実を図った。
  - 施設の適切な維持管理  
事故防止に万全を期すとともに、リスクマネジメント体制の強化を図り、万一事故が発生した場合には迅速かつ適切な対応、要因の検証と事故再発防止対策に努め、安心と安全を提供した。
  - 適切なコスト管理  
全職員が絶えずコストを意識しながら業務に従事するよう、機会あるごとに意識転換を図ることを心がけた。
  - 昨年に引き続き、コピー機と印刷機の併用や定期郵便物のメール便利用等によるコスト削減に努めた。
- 3 管理経費 ( )書きは19年度実績  
43,411千円(41,717千円)

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

特になし。

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

処遇提供業務については、入所者のニーズに基づいた個別支援計画の作成やQCサークル活動の実践により、サービス向上に積極的に取り組むなど基本協定に基づき適切に運営されている。

また、苦情解決制度の環境整備を進めるなど、入所者の側に立った施設運営に取り組んでいると認められる。

また、コスト管理の徹底等について、全職員を含めた意識改革に取り組んでいるなど、サービス面、コスト面の両面において管理運営の目標を達成したと判断できる。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

特になし

### 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等        |
|----------|-------|----|---------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画の確認             |
| 月例報告     |       | 12 | 入所状況の確認             |
| 四半期報告    |       | 4  | 収入状況の確認             |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告に基づく確認          |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                     |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務の実施状況、経費の収支状況等の確認 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                     |
| その他      | ×     |    |                     |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

（指定管理者委託は平成20年度にて終了し、平成21年度より福島県社会福祉事業団へ経営を移譲）

|      |  |        |                |
|------|--|--------|----------------|
| 施設名  | 障がい児・者福祉施設（８施設）                                | 指定管理者名 | (社福)福島県社会福祉事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H23.3.31（６施設）<br>H20.4.1～H23.3.31（２施設） | 担当課名   | 保健福祉部障がい者福祉課   |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 【施設利用実績】

[年間利用率(%)]

| 施設名<br>年度 | けやき荘  | かしわ荘  | かえで荘  | ばんだい荘<br>あおば | 矢吹<br>しらうめ荘 | 矢吹しらうめ<br>通 勤 寮 | ばんだい荘<br>わかば | ひばり寮  |
|-----------|-------|-------|-------|--------------|-------------|-----------------|--------------|-------|
| 19        | 93.4% | 92.2% | 93.1% | 92.2%        | 94.7%       | 82.6%           | 78.1%        | 89.7% |
| 20        | 95.2% | 95.3% | 95.8% | 99.4%        | 99.2%       | 93.3%           | 89.4%        | 87.0% |

「県立社会福祉施設見直し工程表」においては、けやき荘、かしわ荘、かえで荘、矢吹しらうめ荘及びひばり寮は、「入所者の地域生活への移行を進め、既存の入所定員を段階的に縮小する。」とされている。

矢吹しらうめ通勤寮は、就労している知的障がい者に対し、居室等を提供し、独立・自活に必要な助言・指導を行う施設であり、その性格上、常時定員を満たすことは困難な施設である。

ばんだい荘わかば（定員40名）は、入所者の障がい特性を踏まえ、強度行動障がい児4名を個室で処遇しているため、現状では36名で満床の状態となっている。

### 【主な取組実績】（指定管理者 通年 サービス関連）

お客様本位のサービス提供の徹底と専門性の向上について

- お客様主体のサービスの向上について  
施設を越えた質の高いサービスの確保及び更なる向上をめざして次の取組みを行った。  
個別支援計画による支援の実施  
福祉QC活動の充実（施設ごとに事例報告）
- 障害者自立支援法に基づくサービス体制の再構築  
サービス管理責任者等の育成（県の養成研修会の受講）
- 安心・安全のサービス提供の体制強化  
太陽の国病院を中心とした協力医療機関との連携強化  
施設サービス評価事業の充実（自主評価と第三者委員による評価）  
苦情解決制度の拡充と苦情への即応（事業団ホームページへの開示も継続）
- サービス内容の情報発信による運営の透明性の向上  
ホームページと「家族通信」の充実
- 職員のサービス技術及び専門的能力の向上  
専門研修への積極的な参加と内部研修の充実

地域福祉の推進及び各種事業の展開について

- 県全域を対象として専門的事業の推進  
地域福祉支援プロジェクトチーム派遣事業  
認知症介護スキルアップ研修  
口腔ケア推進研修事業
- 地域福祉サービスの充実とセーフティネット機能の強化  
地域で生活している障がい者を一時的に支援するための「短期入所事業」及び「日中一時支援事業」の実施

### 【短期入所事業実績】

| 施設名<br>年度 | けやき荘 | かしわ荘 | かえで荘 | ばんだい荘<br>あおば | 矢吹<br>しらうめ荘 | ばんだい荘<br>わかば | きびたき寮 | ひばり寮   |
|-----------|------|------|------|--------------|-------------|--------------|-------|--------|
| 19        | -    | 1<8> | -    | 13<145>      | 8<43>       | 13<155>      | -     | 4<247> |
| 20        | -    | -    | 1<2> | 116<211>     | 92<184>     | 62<127>      | -     | 1<1>   |

各施設実人員を表示〔< >内は延人数〕

けやき荘、かしわ荘、かえで荘及びきびたき寮は空床利用。他の施設は専用床利用。

【日中一時支援事業実績】

| 施設名<br>年 度 | ばんだい荘あおば |     | ばんだい荘わかば |     | 矢吹しらうめ荘 |     |
|------------|----------|-----|----------|-----|---------|-----|
|            | 実人数      | 延人数 | 実人数      | 延人数 | 実人数     | 延人数 |
| 19         | 3        | 153 | 14       | 319 | 0       | 0   |
| 20         | 2        | 99  | 12       | 557 | 2       | 8   |

他の施設の実績はなし

2 4 時間相談支援の継続実施（「事業団地域生活支援センターやぶき」）

〔相談受付件数実績〕

| 障がい区分 |     | 一 般 |    | 知 的 |     | 精 神 |    | 合 計 |     |
|-------|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 年 度   |     | 19  | 20 | 19  | 20  | 19  | 20 | 19  | 20  |
| 電 話   | 日 中 | 2   | 0  | 15  | 66  | 6   | 4  | 23  | 70  |
|       | 夜 間 | 0   | 0  | 5   | 10  | 4   | 6  | 9   | 16  |
| 訪 問   | 日 中 | 0   | 0  | 35  | 64  | 2   | 4  | 37  | 68  |
|       | 夜 間 | 0   | 0  | 3   | 8   | 0   | 0  | 3   | 8   |
| 合 計   |     | 2   | 0  | 58  | 148 | 12  | 14 | 72  | 162 |

障がい者地域就業ステップアップ事業（県委託事業）の継続実施

〔実績〕

| 年 度 | 支援対象登録者数 | 相談実施件数 |
|-----|----------|--------|
| 19  | 38       | 2,008  |
| 20  | 38       | 2,384  |

会津地域における地域療育等支援事業（県委託事業）の継続実施

〔実績〕

| 年 度 | 専門相談支援件数 |
|-----|----------|
| 19  | 213      |
| 20  | 145      |

相談支援件数が減少した理由

自立支援法の施行に伴い、平成18年10月以降、相談支援事業が主として市町村の地域生活支援事業として実施されるようになったことによる。

2 地域生活移行に向けた取り組みの強化

事業団障がい者地域生活体験事業の継続実施

〔実績〕

| 年 度 | 宿泊体験者数 | 日帰り体験者数 | 対象施設                |
|-----|--------|---------|---------------------|
| 19  | 33     | 52      | けやき荘、かえで荘、かしわ荘、ひばり寮 |
| 20  | 26     | 69      | けやき荘、かえで荘、かしわ荘、ひばり寮 |

地域生活移行の推進に関する研修会の実施

#### コスト削減について

さらなる節電（昼休み消灯） メール便の活用、裏面コピーの実践  
重油代の節約のために、冬期間を除いた日曜日のボイラーの停止（太陽の国）  
扶養手当の引き下げ  
自前職員による施設内外の整備

#### その他

西郷村文化祭への参加など地域主催の行事に積極的に参加した。  
嗜好調査等による食に対するニーズの把握や食事摂取基準（2005版）に基づく食事の提供を行った。  
感染症予防のための徹底した手洗いや施設内清潔を保った。

#### 【管理経費】

（単位：千円）

| 施設名<br>年度 | けやき荘   | かしわ荘   | かえで荘   | ばんだい荘<br>あ お ば | 矢 吹<br>しらうめ荘 | 天吹しらうめ<br>通 勤 寮 | ばんだい荘<br>わ か ば | ひばり寮    |
|-----------|--------|--------|--------|----------------|--------------|-----------------|----------------|---------|
| 19        | 70,926 | 77,024 | 74,714 | 17,772         | 39,881       | 18,522          | 26,201         | 112,504 |
| 20        | 70,851 | 77,563 | 77,639 | 15,882         | 29,413       | 20,645          | 30,128         | 110,596 |

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

お客様本位のサービス提供の徹底と専門性の向上について

- お客様主体のサービスの向上について  
生きがい対策の充実  
太陽の国文化祭において、移動水族館（アクアマリン協力）を開催  
休日等における事務室体制の強化  
事務室に職員を配置し、相談体制を強化
- 障害者自立支援法に基づくサービス体制の再構築  
新体系移行への検討  
プロジェクトチームによる新事業体系への検討  
太陽の国共同作業所の業務充実  
陶芸・手芸作業を充実し、陶芸で白河市長賞を受賞
- 安心・安全のサービス提供の体制強化  
危機管理体制の強化（地震予知システムを設置）

地域福祉の推進及び各種事業の展開について

知的グループホーム「ぜんごう」を開設  
地域生活への移行に欠かせない居住の場として整備

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

#### 【施設利用実績の評価】

入所者の地域生活移行支援に取り組みながら、施設入所支援のニーズに適確に対応した結果、各施設の年間平均利用率は、ひばり寮を除き前年度実績を上回っており、指定管理者の取り組みが着実に効果を上げているものと認められる。

#### 【主な取組実績の評価】

各施設の管理運営業務については、基本協定に基づき適切に行われている。  
従前からの取組みについても、イベント等において創意工夫がなされており、積極的な改善が図られている。

保守管理業務については、築後30年以上経過した施設が2施設（けやき荘、かしわ荘）あり老朽化が目立つが、点検、清掃等による保守が確実に行われている。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

いずれの取組みも、入所者のニーズを的確に反映しており、処遇の更なる向上や地域生活移行を推進する適時・適切な内容であり、高く評価できる。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等  |
|----------|-------|----|---|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理体制、業務内容、管理運営目標達成のために取り組む具体的内容、業務に要する経費等           |
| 月例報告     |       | 12 | 施設利用状況  |
| 四半期報告    |       | 4  | 施設利用料金の収入状況   |
| 定期立入検査   |       | 1  | 管理委託業務成果確認検査  |
| 不定期立入検査  |       | 1  | 改修等県営工事の要求箇所に係る実地調査                                 |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理業務の実施状況及び利用状況、利用料金の収入実績、管理運営目標の達成状況、業務に係る経費の収支状況等 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |   |
| その他      |       | 1  | 財政的援助等団体監査（監査委員事務局）                                 |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

【目 標】

各施設ごとに「スローガン」（目標）と「基本方針」（取組方針）を設定し、お客様主体のサービス提供に努めるとともに、地域との連携による入所者の地域生活移行に向けた支援の取組みを進める。また、障害者自立支援法の新事業移行を見据えた体制整備を進める。

【具体的取組】

今後ともお客様の個別支援計画（ケアプラン）に基づき、適切なサービスの提供を図るとともに、モニタリングによる支援の充実に努める。

お客様の地域生活体験や町村が行う地域生活支援事業へのバックアップを継続し、圏域内関係団体、関係機関等との積極的連携を図る。（県南障がい者就業・生活センターとの連携による就業・生活支援など）

プロジェクトチームを中心に、障害者自立支援法の新事業に向けた移行の準備を行う。

|      |                  |        |             |
|------|------------------|--------|-------------|
| 施設名  | 福島県点字図書館         | 指定管理者名 | (社)福島県盲人協会  |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 保健福祉部障がい福祉課 |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の利用状況（カッコ内は平成19年度実績）

来館者（利用者）数 384名（326名）

見学者数 187名（256名）

#### <取り組んだ内容>

来館者に対し適切な対応を励行し「足を運びやすい環境」作りに努めた。

見学者については、各学校における総合学習授業の受け入れ等を積極的に行った。

ホームページ上において施設見学に関する案内のページを設定し周知を行った。

### 2 点字刊行物等の貸出数（カッコ内は平成19年度実績）

<タイトル>

<巻>

点字図書 1,664（1,391） 5,636（4,928）

テープ図書 9,303（10,694） 33,105（38,159）

デイジー図書 14,459（11,313） 14,466（11,318）

#### <取り組んだ内容>

自館製作図書を選定する「図書選定委員会」の委員を引き続き外部（利用者、学識者）からも委嘱を行い、それぞれの立場から広く意見を聴取し、利用者のリクエストに応えるとともに製作タイトルの拡充に努めた。

毎週水曜日に配信としている「新刊図書案内配信サービス」の内容に雑誌も加えるとともに、必要に応じて他の情報も適時行い情報提供の一層の充実を図った。

児童書・絵本の製作に継続して取り組み、学生など若年層へのニーズにも応えた。

デイジー図書再生機「プレクストーク」の講習会を会津若松市といわき市で開催し、デイジー図書の利用促進に努めた。

地域情報の提供を目的とした自館製作録音雑誌の製作を継続した。

レファレンスサービスを積極的にPRし、利用者の知的探求心に応えた。

（平成20年4月～平成21年3月 16件）

### 3 点字刊行物等の製作数（カッコ内は平成19年度実績）

<タイトル>

<巻>

点字図書 130（139） 483（522）

テープ図書 100（143） 513（747）

デイジー図書 262（241） 262（241）

#### <取り組んだ内容>

図書製作の進捗状況について管理確認を行い、図書の早期完成を目指した。

テープ図書のみ蔵書となっていた録音図書のデジタル化を継続して実施し、デイジー図書利用者への提供図書の一層の拡充を図った。

奉仕員に対する外部講師の研修会を点訳、音訳それぞれ年2回ずつ福島県立図書館研修室において開催し、奉仕活動に対する資質の向上を図った。

### 4 奉仕員の養成人数（カッコ内は平成19年度実績）

点訳奉仕員 10名（15名）

音訳奉仕員 11名（9名）

デイジー編集奉仕員 1名（4名）

#### <取り組んだ内容>

点訳奉仕員養成講座（中級）の実施。（平成19年度初級講座修了者等）

音訳奉仕員養成講座の実施。（応募者数62名）

デイジー編集奉仕員養成講座は、奉仕員数と活動（図書製作）とのバランスが取れている状況のため、従来の公募は行わず希望者1名に対して実施した。

音訳奉仕員を対象としたデジタル録音講習会を実施し、アナログ録音からの移行を順次行った。

音訳指導技術講習会へ担当者を派遣し、録音図書製作指導技術の向上を図った。



福島県点友会と全国視覚障害者情報提供施設協会事務局長との情報懇談会を企画し、奉仕団体の会員に視覚障がい者を取り巻く全国的な状況を学習する場を提供した。

## 5 利用登録者数

平成21年3月31日現在 684名(県内642名、県外60名)

平成20年度新規登録者 44名(県内44名、県外0名)

<取り組んだ内容>

「移動点字図書館」の実施による利用登録の促進および事業の広報。

「視覚障がい者巡回相談会」における広報及び利用登録の受付。

福島県立盲学校同窓会と連携し、同窓生に対する個人登録案内ならびに既登録者に対する利用促進のリーフレットを配布。

視覚障がい者関連行事、マスコミ等における各種広報活動の実施。

## 6 管理経費 (カッコ内は平成19年度実績)

委託料 35,662,600円(35,862,600円)

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

#### 1 施設の利用状況

・ホームページ上に施設見学案内のページを追加し、周知を行った。

#### 2 点字刊行物等の貸出数

・福島県立盲学校同窓生の既登録者に、更なる利用促進を案内するリーフレットを配布した。

・「移動点字図書館」を地域で実施し、貸出および貸出予約の受付を行った。

#### 3 点字刊行物等の製作数

・自館「点訳図書製作基準」の見直しを実施し、より適切な図書製作に努めた。

#### 4 奉仕員の養成人数

・奉仕員養成講座修了者ならびに奉仕団体役員と全国視覚障害者情報提供施設協会事務局長との情報懇談会を実施し、奉仕活動に対する意識の向上を図った。

#### 5 利用登録者の増加

・「移動点字図書館」の実施による未登録者への事業案内を行った。

・福島県立盲学校同窓生のうち未登録者については登録案内を促すリーフレットを配布した。

#### 6 その他

・「福島県点字図書館のつどい」に併せて一般の方も来場できる形式の『福祉機器展示会』を行い、広く視覚障がい者に対する理解の促進に努めた。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

### 1 施設の利用状況

平成19年度と比較すると、見学者数は減少(69名)しているものの、来館者(利用者)数は増加(58名)している。見学者数の減少に対応して新たにホームページ上に施設見学案内のページを設けるなど積極的に点字図書館の周知が行われている。さらに、来館者に対して適切な対応を励行し「足を運びやすい環境」づくりに努めるなどの取り組みもあり、来館者は年々増加しており、点字図書館の利用促進が図られている。

### 2 点字刊行物等の貸出数

平成19年度の貸出数と比較すると、テープ図書(タイトル1,391・巻5,054)は減少しているものの、点字図書(タイトル273・巻708)及びデジター図書(タイトル3,146・巻3,148)は増加している。デジター図書貸出数が大幅に増加しており、アナログからデジタル化への対応が見られる。デジター図書再生機の講習会の開催、福島県立盲学校同窓生の既登録者への案内リーフレットの配付、移動点字図書館における貸出及び貸出予約の受付など、貸出数の増加に向けて積極的に取り組んでおり、適切に管理運営業務が実施されたと判断す

る。

### 3 点字刊行物等の製作数

平成19年度の製作数と比較すると、点字図書(タイトル 9・巻 39)及びテープ図書(タイトル 43・巻 234)は減少しているが、デジジー図書(タイトル21・巻21)は増加している。製作数においても、貸出数と同様、デジタル化に対応し、デジジー図書の拡充が図られている。さらに、点訳及び音訳奉仕員に対する研修会を年2回ずつ開催し、奉仕員の資質向上並びに質の高い図書製作にも積極的に取り組んでおり、適切に管理運営業務が実施されたと判断する。

### 4 奉仕員の養成人数

点訳、音訳及びデジジー編集奉仕員の養成講座、音訳奉仕員に対してアナログ録音からデジタル録音へ移行を順次行うための講習会を開催している。さらに、関係機関との情報懇談会を開催し視覚障がい者を取り巻く全国的な状況を学習する場を提供し、奉仕員の意識向上を図る取り組みを行うなど、適切に管理運営業務が実施されたと判断する。

### 5 利用登録者数

「移動点字図書館」「視覚障がい者巡回相談会」における広報及び利用登録の促進、県立盲学校同窓会との連携による同窓生の個人登録の推進、その他各種広報活動等、利用登録の増加を図るため積極的に取り組んでおり、適切に指定管理業務が実施されたと判断する。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

施設の利用促進、利用登録者の獲得、利用者ニーズにより応えるためのサービス、奉仕員の養成及び資質向上、視覚障がい者に対する理解促進、視覚障がい者関連行事における各種広報活動など、点字図書館の管理運営に求められる業務全体について、指定管理者の創意工夫がされており、非常に高い評価を与えることができる。

## 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等  |
|----------|-------|----|---|
| 年度事業計画   |       | 1  | 【報告要求項目】<br>1 管理の体制<br>2 業務の内容<br>3 管理運営目標のために取り組む具体的内容<br>4 業務に要する経費 |
| 月例報告     | ×     |    |   |
| 四半期報告    |       | 4  | 【報告要求項目】<br>1 管理業務の実施状況及び利用状況<br>2 事業の実施状況                            |
| 定期立入検査   | ×     |    |   |
| 不定期立入検査  | ×     |    |   |
| 事業報告書    |       | 1  | 【報告要求項目】<br>1 管理業務の実施状況及び利用状況<br>2 管理運営目標の達成状況<br>3 業務に係る経費の収支状況      |
| 外部委員等評価  | ×     |    |   |
| その他      |       | 1  | 【検査目的等】<br>1 公益法人指導検査(障がい福祉課)   |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

#### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

- 1 利用者の拡大
  - ・移動点字図書館を実施し、未登録の視覚障がい者に対する登録の働きかけを行う。
  - ・視覚障がい者団体への啓蒙を行う。
  - ・関係機関、団体との連携を行う。
  - ・報道機関、広報誌等による広報
  - ・福島県立盲学校や同校同窓会との連携を図り利用登録者の増加を図る。
- 2 「情報提供施設」としての機能充実
  - ・原本図書の選定にあたっては、視覚障がい者の要望を十分考慮する。
  - ・レファレンスサービス実施にあたっては、迅速かつ正確な情報提供ができるよう努める。
  - ・デイジー図書再生機の操作講習会を実施し、テープ図書からデイジー図書への利用移行ならびにデイジー図書利用の一層の促進を図る。
  - ・電子メールや電話ナビゲーションシステムなどを活用した迅速な情報提供を行い、利用者の情報格差の解消に努める。
  - ・インターネットを使った図書検索や新しい読書形態の利用者に対する対応を行う。
  - ・生活情報など図書以外の情報に関する利用者ニーズへの対応を行う。
  - ・全国の「視覚障害者情報提供施設」と連携を図り、施設機能の充実を図る。
- 3 点訳、音訳奉仕員養成講座および研修会の実施、周知
  - ・点訳、音訳、デイジー編集奉仕員養成講座を実施する。
  - ・点訳、音訳奉仕員研修会を実施し、奉仕活動に対する資質向上を図る。
  - ・デジタル録音への移行に関する取り組みを継続して行う。
  - ・他地域における各種研修会への参加を促し、資質向上のための機会を提供する。
  - ・奉仕活動に関する基礎技術習得のほか、視覚障がい者に対し理解を深める講習内容も増やし、より利用者の立場に立った実践力の養成を図る。
- 4 広報活動の実施
  - ・施設見学者の受け入れを行い、点字図書館業務ならびに視覚障がい者に対する理解を深めてもらう。
  - ・「福祉機器展示会」の周知を広く行い、視覚障がい者に対する理解を深めてもらう。

|      |                      |        |                |
|------|----------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 福島県中小企業振興館(企業支援室を除く) | 指定管理者名 | (財)福島県産業振興センター |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31     | 担当課名   | 商工労働部団体支援課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 施設利用の促進

(1) ホームページ活用・パンフレット配布等の利用拡大のPR活動により、新規利用者の開拓やリピーター顧客の確保に努めた結果、平成20年度の県会議室の稼働率は55.4%(前年度53.1%)となった。

稼働率の推移(使用面積/使用可能面積)の推移 53.1% 53.1% 55.4%

稼働率の推移(使用日数/使用可能日数)の推移 58.7% 59.1% 61.9%

平成18年度から引き続き、会議室空室状況のHP上での提供、会議室等利用者が利用できるFAX・コピー機の設置(利用実績:FAX 150件、コピー約15,000枚)など、サービスの向上に努めた。

(2) 施設利用者に対する意見箱の設置やアンケート調査を実施し、利用者の意見等の収集を図り、実現可能なものについては対応した。また、全国展示場連絡協議会が主催する実務担当者研修に参加するなど、効果的な人材育成をもってサービスの向上に努め、安心して利用できる施設づくりを目指した。

#### 【会議室のアンケート調査(市会議室を含めた調査)】(単位:%)

|                  | 満足       |      | やや満足 |      | やや不満 |      | 不満(1) |     |
|------------------|----------|------|------|------|------|------|-------|-----|
|                  |          |      |      |      |      |      |       |     |
| 会議室施設について        | 86.2     | 86.6 | 12.9 | 11.0 | 0.9  | 1.6  | 0     | 0.8 |
| 会議室備品について        | 84.5     | 86.2 | 10.3 | 11.0 | 2.6  | 2.6  | 0     | 0.8 |
| 会議室受付窓口の対応       | 88.8     | 88.5 | 6.9  | 10.7 | 0.9  | 0.8  | 0     | 0   |
| 清掃設営・音響調光の対応について | -        | 85.3 | -    | 13.1 | -    | 1.6  | -     | 0   |
| 今後の利用について        | 積極的に利用する |      |      |      | 利用する |      | わからない |     |
|                  | 47.4     |      | 49.0 |      | 33.6 | 45.3 | 3.4   | 5.7 |

1 平成20年度の設問では「改善すべき点がある」に変更している。

2 平成20年度は施設と備品について一括して質問。

- ・ 会議室利用回数について 初めて利用 27.0% 2回目利用 7.6% 3回以上利用 65.4% (3回以上の利用者は、18年度 52.6% 19年度 51.7%で増加傾向にある。)
- ・ 「満足・やや満足」の回答として、施設がきれい・清潔感がある。他の公共施設に比べ、対応職員の接し方が良い。機器操作の説明が親切。机・いす等の補充が迅速であった。
- ・ 「不満・改善すべき点がある」の回答は、LAN接続ができない。プロジェクターが見えにくい等の設備・機器等への指摘。垂れ幕作成のサービス、駐車料金の無料化等。1階イベント会場からの(魚の臭い)臭いについて指摘された。
- ・ 館内施設について「改善すべき箇所はありますか」の設問については
 

|             |    |                     |
|-------------|----|---------------------|
| 電光掲示板に関わるもの | 5件 | 目立たない。文字が小さい等。      |
| 空調に関わるもの    | 5件 | 空調温度の管理が不満。風が直接あたる。 |
| 喫煙所に関わるもの   | 4件 | 分煙が不完全である。          |
- ・ 指摘を受けた点については、改善に向けた取組みを進めるとともに、指定管理者で対応できない事項については関係機関に情報を伝達した。

(3) 再受託者との、ミーティングや定例会議(月1回)を実施した。  
サービス向上を目的に様々な課題を再受託者と共有し、改善を図っている。

### 2 経費の削減

エコオフィスの推進(昼休み時間の消灯、コピー用紙の裏面利用等)・再委託の利用(清掃業務のアウトソーシングの利用)など

| 項目             | 17年度経費 A  | 20年度経費 B  | 差額 B - A | B / A  |
|----------------|-----------|-----------|----------|--------|
| 業務費<br>(含光熱水費) | 57,356 千円 | 50,340 千円 | 7,016 千円 | 87.8 % |
| 計              | 57,356 千円 | 50,340 千円 | 7,016 千円 | 87.8 % |

### 3 施設利用者の安全確保等

- (1) コラッセふくしま管理組合と連携し、年2回の定期的な防災訓練を実施した。
- (2) 危険回避、予防のため、定期的に管理区域を巡回するとともに、防災センターとの情報交換を行った。
- (3) 急患搬送等に対応するため、松葉杖を設置した。  
常備機器類 担架 1台(19年度) 松葉杖(20年度) 1台  
他に、管理組合が設置している 車いす 2台 AED装置 1台 がある。

### 4 コラッセ入居者との協力・連携

コラッセふくしま入居団体や賑わい創出業務の受託団体との会議を定期的に行うなど、各団体との協力・連携を図り、施設利用者の利便性向上に努めるとともに、さらなる施設利用の促進に努めた。

### 5 関連業務(経営支援プラザの運営)

中小企業振興館に設置している経営支援プラザでは、県内中小企業者の総合支援窓口として、コンサルティングサービスや情報提供サービスなど、経営課題の解決や改善に向けた経営サポートを行った。

経営課題等相談者数の推移 536人 447人 503人  
情報サービス等利用者数の推移 14,868人 15,350人 11,571人

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

- ・小研修室のパソコンを撤去し、一般の会議室としてリニューアルした。
- ・急患搬送に対応するための松葉杖を設置した。
- ・1階仮設案内板(エレベーターホール)を増設した。
- ・(より見やすくするために)1階案内板の設置場所を移動した。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

### 1 施設利用の促進

会議室の面積ベースでみた稼働率(使用面積/使用可能面積)は、55.4%と前年度と比較して2.3ポイント上昇し、日数ベースで見た稼働率(使用日数/使用可能日数)も61.9%と前年度より2.8ポイント上昇するなど、平成18年度の指定管理者制度導入以降、最も高い数値になっていること及び3回以上の利用者が65.4%と前年度から13.7ポイント上昇しており、利用者から評価されてリピーターが増加していること等から、指定管理者の取組(広報やサービス向上等)は評価できる。

### 2 経費の削減

前年度から引き続きエコオフィスの推進や業務の再委託による経費削減に努めるなど、取組は評価できる。

電気料金等の値上げにより光熱水費が上昇したことから、引き続き経費の削減に努める必要がある。

### 3 施設利用者の安全確保等(4 コラッセ入居者との協力・連携を含む)

中小企業振興館は、コラッセふくしま内の施設であるため、利用者の安全確保やサービス向上等を図るうえで、コラッセふくしまの入居団体等の連携・協力は不可欠となるため、防災訓練や定期的な会議の開催など、指定管理者の取組は評価できる。

5 関連業務（経営支援プラザの運営）

県内中小企業者の総合支援拠点となる経営支援プラザについては、厳しい景気状況に対応するため、その必要性がより高まっていることから、引き続き中小企業者のニーズに応じた効果的なサービスを提供する必要がある。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

施設管理者としてのリスク管理や利便性の向上など、より良い施設サービスに努めたことは、評価できる。今後とも、指定管理者として、サービス向上に取り組む必要がある。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数  | 報告要求項目・検査目的等   |
|----------|-------|-----|--|
| 年度事業計画   |       | 2   | 管理体制、業務内容、管理目標達成のために取り組む具体的内容、業務に要する経費、年度中間での経費の年間所要見込額等 |
| 月例報告     |       | 1 2 | 稼働率実績、施設利用予定表、使用状況推移、光熱水費支払実績等                           |
| 四半期報告    | ×     |     |  |
| 定期立入検査   | ×     |     |  |
| 不定期立入検査  | ×     |     |  |
| 事業報告書    |       | 1   | 管理業務の実施状況及び利用状況、管理運営目標の達成状況、業務に係る経費の収支状況等                |
| 外部委員等評価  | ×     |     |  |
| その他      |       | 1 2 | センター主催によるコラッセふくしま入居者等との連携・協力等を図るための情報交換会の開催              |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

- (1) 施設利用の促進について  
施設稼働率の維持は、リピーター利用者の拡大が不可欠である。  
前年同様に利用者からの意見・苦情・アンケート等の調査結果を業務に反映させ、サービスの向上に努める。
- (2) 経費の削減について  
ア 会議室受付・総合案内・賑わい業務を一体的に配置することにより人員体制を見直し、経費（人件費）削減に努める。  
イ エコオフィスの推進による電気料等、事務費・消耗品経費等の削減に努める。  
コピー機の複数年契約の移行に努める。
- (3) 案内表示の総合的な見直しを継続して行う。
- (4) 当施設は、今夏で7年目を迎える。  
プロジェクターをはじめ、映像音響機器等の経年劣化が進んでいる。  
お客様からの苦情（見えにくい等）も増えていることから、将来に向け、機器類の更新を検討していく。

|      |   |        |                                   |
|------|---|--------|-----------------------------------|
| 施設名  | 福島県中小企業振興館(起業支援室)<br>(施設通称:福島駅西口インキュベートルーム) | 指定管理者名 | 特定非営利活動法人福島県ベンチャー・SOHO・テレワーカー共働機構 |
| 指定期間 | H18.4.1~H21.3.31                            | 担当課名   | 商工労働部産業創出課                        |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 施設の維持管理

24時間365日の利用を可能にし、日曜日を除き、9:00~18:00の受付セキュリティを確保するなど、適切に実施した。

### 2 施設及び附属設備の利用

入居者が利用しやすいよう管理するとともに、施設稼働率を向上するよう努めた。

### 3 起業家の支援

#### (1) インキュベーションマネージャーによるコーチング

インキュベーションマネージャーを設置し、統括マネージャーと合わせて週5日間(平日全て)に相談支援に対応する体制を構築し実施した。

#### (2) 事務スタッフによるセクレタリサービス

セクレタリスタッフを2名配置し、日常の庶務的な事務処理に加え、インキュベーションマネージャーの補佐を行い、適切な管理を実施した。

#### (3) 事務スタッフによる情報ネットワークサービス(インターネット接続環境の提供)

情報ネットワーク管理スタッフを1名配置して、施設の情報ネットワークに関してクライアントへ良質なサービスを提供した。

#### (4) 必要に応じた各種専門家等への紹介を実施した。

#### (5) 講演会、交流会の開催等

講演会は、「平成20年9月20日:福島大学陸上部監督 川本和久氏」を招いて開催した。

(40名参加)

また、交流会は、計3回開催し、合計で48名が参加した。

全国インキュベーションネットワーク会議への出席、福島県インキュベーション施設ネットワーク協議会の設立を支援した。

#### (6) プレゼンテーションの場の提供を行った。

#### (7) クライアント間の交流の場の提供を行った。

#### (8) 地域メンター(企業経営者)、大学研究者等との交流の場の提供を行った。

#### (9) 入居者の状況

|         | 末     | 末     |
|---------|-------|-------|
| ・現入居者数  | 15    | 14    |
| ・延べ入居者数 | 46    | 37    |
| ・卒業生数   | 26    | 18    |
| ・退去者数   | 5     | 4     |
| ・入居稼働率  | 77.5% | 78.4% |

### 4 コストの削減

インキュベーションマネージャー及び総括マネージャーの人件費単価を下げるとともに、IT技術を活用して電子メール等による相談指導を可能として、スタッフが在勤で勤務する時間数を削減し、相談・指導の質を落とさない中で経費の削減に努めた。また、節電、節水に努め、修繕の発生等の無いよう、経費削減を心がけた施設管理を行った。

| 項目    | 17年度経費A    | 18年度経費B    | 19年度経費C    | 20年度経費D    | 差額D-A     | 対17年度比 |
|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|--------|
| 人件費   | 21,023,652 | 19,857,710 | 19,538,050 | 18,702,920 | 2,320,732 | 89.0%  |
| 一般管理費 | 1,847,288  | 2,543,287  | 2,982,876  | 3,901,647  | 2,054,359 | 211.2% |
| 事業費   | 129,060    | 316,810    | 352,765    | 403,053    | 273,993   | 312.3% |
| 計     | 23,000,000 | 22,717,807 | 22,873,691 | 23,007,620 | 7,620     | 100.0% |

ただし、平成17年度は光熱水費について委託料に含めていなかったため、一般管理費の単純比較はできない。（平成18年度以降の経費には光熱水費が含まれている。）

## 5 サービスの向上

- (1) 入居者に対して「事業のアイデアの具体化（コンセプト構築）」と「事業を軌道に乗せる（収益の上げられる事業を展開し、なおかつその事業が続く見込みが立つ）」という目標を達成するために、入居者毎に支援プランを策定し経営診断・助言等のコンサルティングを行った。
- (2) インキュベーションマネージャー、統括マネージャーが、自らが経営を行う中での多様なネットワークを駆使して、仕事を紹介斡旋するよう努めた。

---

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

うつくしま情報局に出演し、施設の周知や入居者募集を効果的に実施するとともに、日本経済新聞の起業家特集に取り上げられるなど、マスコミを積極的に活用した。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

### 1 施設の維持管理

計画どおりに行われ、適切に管理されていると判断する。

### 2 施設及び附属設備の利用

計画どおりに行われ、適切に管理されていると判断する。

### 3 起業化の支援

- (1) インキュベーションマネージャーによるコーチング  
クライアントに対する適切なコーチングが行われたと判断する。
- (2) 事務スタッフによるセクレタリサービス  
日常の庶務的な事務処理に加え、インキュベーションマネージャーの補佐について適切な管理を実施したと判断する。
- (3) 事務スタッフによる情報ネットワークサービス（インターネット接続環境の提供）  
クライアントへ良質なサービスを提供したと判断する。
- (4) 必要に応じた各種専門家等への紹介を実施したと判断する。
- (5) 講演会、スキルアップセミナーの開催、案内  
講演会及び交流会は計3回開催され、適切に開催されたと判断する。会議への参加を行った。
- (6) 年4回行った入居者選定審査、入居期間更新希望者の更新審査を通じて、適切にプレゼンテーションの場の提供を行ったと判断する。
- (7) 学習会等を通じて、クライアント間の交流の場の提供を行ったと判断する。
- (8) 起業家スクール等の開催により、地域メンター（企業経営者）、大学研究者等との交流の場の提供を行ったと判断する。
- (9) 平成15年7月の開設から平成20年度末の入居稼働率は77.5%で、目標の75%を上回る結果となっているとともに、26の卒業企業（平成20年度末）のうち23企業が県内に定着し、事業継続していることから、適切な運営がなされたものと判断する。

#### 【施設開設から平成20年度末までの状況】

入居企業：46 退居企業：5 卒業企業：26（うち23企業が事業継続）  
事業継続率：23 / 26 = 88.5%

### 4 コストの削減

一般管理費については、今年度、入居者募集や講演会や交流会の広告に力を入れたことによる広告費の増加、パソコンの購入、光熱水費の増加により前年に比較し増加したが、その分人件費を抑制し、経費削減に努めたと判断される。

### 5 サービスの向上

卒業企業が地元で定着し確実に実績を上げる企業に成長させることが最大の目的であるので、引き続き各クライアントの状況・能力に応じた適切なコーチングを期待する。



【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

マスコミに取り上げられる機会が増えたことにより、入居者募集の応募数が徐々に増加するとともに、入居企業や指定管理者のモチベーションが向上した。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等  |
|----------|-------|----|---|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。   |
| 月例報告     | ×     |    |   |
| 四半期報告    |       | 1  | 6ヶ月経過後の管理業務の実施状況、利用状況等について報告させた。  |
| 定期立入検査   |       |    | 常駐の起業支援員により随時実施している。  |
| 不定期立入検査  | ×     |    | 管理運営状況（植栽・芝等、清掃）及び小修繕の確認  |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認  |
| 外部委員等評価  |       | 1  | 福島駅西口インキュベーションルーム運営評価委員会により指定管理者の活動成果の評価を実施。平成20年9月4日に実施し、事業計画に基づき適正に運営されている旨の報告を受けている。 |
| その他      |       | 1  | の実施に当たり、入居者にアンケート調査を実施した。   |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

入居者への支援実績を明確にするため、月次の支援プログラムを策定し、その進捗について管理するよう指示した。 支援プログラムを策定した。

施設のPRに積極的に取り組むよう指示した。 施設紹介、入居者募集、入居企業紹介等、新聞、テレビ、雑誌等に多数取り上げられた。

4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

施設開設から6年を経過することから、成果（投資対効果）を定量的に把握する。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 福島県ハイテクプラザ(一部)   | 指定管理者名 | (財)福島県産業振興センター |
| 指定期間 | H18.4.1~H21.3.31 | 担当課名   | 商工労働部産業創出課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 ハイテクプラザ(一部)の維持管理に関する事項

(1) 施設・設備の管理については、日常の管理及び利用者への使用上に対する注意が徹底して行えたため、指定管理業務で管理する設備・備品については故障、異常の生じたものはなかった。

(2) 経費については、全体的に縮減に努めた。

(単位：千円)

| 項目    | H17年度経費 | H18年度経費 | H19年度経費 | H20年度経費 | 比較(H20/H17) |
|-------|---------|---------|---------|---------|-------------|
| 人件費   | 9,372   | 9,292   | 9,305   | 9,321   | 99.4%       |
| 一般管理費 | 566     | 367     | 348     | 325     | 57.4%       |
| 計     | 9,938   | 9,660   | 9,653   | 9,646   | 97.0%       |

### 2 ハイテクプラザ(一部)の使用の承認に係る事項

(1) 窓口対応職員1名と管理職者が交代制により対応したことで、施設予約、受付業務が頻繁に生じる中、昼休み時間中も業務を中断することなく職員を配置することにより、迅速かつ適切な対応ができた。

(2) パンフレット、ホームページ、ハイテクプラザでの広報を活用した施設のPR、自主企画の研修等の積極的な実施により効率的な施設の活用が達成できた。

多目的ホール 166回(H19:171回) 1,031千円

研修室 201回(H19:241回) 313千円

設備使用 437時間(H19:458時間)

(3) インキュベートルーム的な貸出し部屋である技術開発室(部屋数10室)については、PRに努めるとともに、既存の入居企業や大学との連携もとり、ハイテクプラザと連携した効果的な技術指導が実施できた。

入居者

(有)エイチ・エス・エレクトリック

福島大学

(株)SRA東北

(株)JMC

北部通信工業(株)

(4) 収入証紙については、昼休みを含み、迅速かつ的確な売りさばき等に対応できた。

### 3 試験及び分析に係る事項

企業からの試験・分析依頼に対し、高度な専門知識を有する技術職員を各試験分野に配置し、迅速かつ適切な対応を心がけ、的確に対応できた。

1,441件(H19:2,060件) 4,403千円

【平成20年に新たに取組んだ項目】

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

### 1 ハイテクプラザ(一部)の維持管理に関する事項

(1) 利用者に対する注意喚起をはじめ、各保守管理者、警備業者、ハイテクプラザと連携を取り、大きな管理上の問題は全く生じなかったため、適切な管理ができていると判断する。

### 2 ハイテクプラザ(一部)の使用の承認に係る事項

(1) 多目的ホール、研修室及び設備使用について、使用料収入は、昨年度の実績を上回っている

ものの、使用件数としては昨年度実績を若干下回っているため、施設PRや自主企画による研修会の開催などにより、引き続き施設の効果的活用を図っていく必要がある。

(2) 技術開発室については、ハイテクプラザとの共同研究終了により、退出企業があり、昨年度実績から1減となっている。特殊性の高い案件についてはハイテクプラザ研究員が助言を行うなど、ハイテクプラザと連携した技術指導等を行っており、効果的な活用がなされていると判断できるが、依然空室があるため、減免措置の周知や共同研究参画企業に対する情報提供などの働きかけを行い、施設の有効利用を図ることが必要と思われる。

3 試験及び分析に係る業務事項

昨年度は、全体の使用件数の3割以上を占めていた抗張力試験機が、故障のため4月から8月まで使用不能となったこと及び新規建設工事件数の減少に伴う強度測定試験の減少（申請書様式にデータの使用目的までは記入の必要がないためあくまで推測）などの要因から、件数が減少したと思われる。

今後も引き続きPRを行い、効果的な活用が図られるよう期待したい。

【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等         |
|----------|-------|----|----------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行った。      |
| 月例報告     |       | 7  | 施設・設備使用状況について報告を受けた。 |
| 四半期報告    | ×     |    |                      |
| 定期立入検査   | ×     |    |                      |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                      |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認     |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                      |
| その他      |       | 1  | 事業調整会議を開催し、意見交換を行った。 |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

適切な管理運営状況の把握のため、指定管理にかかる施設・設備の使用状況について、月ごとの状況報告を受けることとした。

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

上記の取組実績の評価を踏まえて、下記の項目について重点的に取り組む。

- 1 年間40件程度の技術研修を実施するほか、産学官各機関と連携した事業を企画し、施設の利用率向上に努める。（通年）
- 2 物性試験、分析（元素分析）、分析（形態観察）に各1名の職員を引き続き配置し、昨年度同様数の依頼試験実施に努める。（通年）
- 3 窓口来訪者への親切丁寧な対応に努め、分かりやすい説明に努めるとともに、利用者からの要望、苦情等については、相談カード・電話受理票で管理し、ハイテクプラザとも連携し、速やかに処理する。（通年）

|      |                  |        |                    |
|------|------------------|--------|--------------------|
| 施設名  | 福島県観光物産館         | 指定管理者名 | (財)福島県観光物産交流協会     |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 商工労働部観光交流局県産品振興戦略課 |

### 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

- 1 施設及び設備の維持管理に関する事項（通年）  
施設及び設備について、善良なる管理者の注意義務をもって実施するとともに、また「コラッセふくしま」の管理組合、関係団体との連携を図ることにより、適切に対応した。
- 2 防災・安全対策に関する事項（通年）
  - (1) 防災  
「コラッセふくしま消防防災計画」に基づく消防防災訓練に積極的に参加し、職員の防災・安全意識の向上に努めた。  
また、厨房使用について、出展者に防火の意識づけを図り、必要事項については消防署の許可を得て実施した。  
占有部分における設備の自主点検、管理を実施し、防災・安全対策に努めた。
  - (2) 防犯  
社内基準により防犯対策に努めるとともに、販売上の日常防犯について「コラッセふくしま」の警備受託業者と連携を図りながら対応した。
  - (3) 事故が発生した場合の対応策  
事故などが発生した場合には、お客様の避難・保護を優先することを職員に徹底した。
  - (4) 地震、火災、その他災害等の緊急体制と対策  
緊急連絡網を整備し、常に連絡が取れるように対応した。
  - (5) 日常的な管理に関する対応策  
専門の委託業者を選定し整備と保守管理を実施し、適切に対応した。

### 3 運営に関する事項（通年）

- (1) 県産品の紹介、展示及び販売  
店頭での展示紹介、販売時における説明、電話の問い合わせに対応するとともに、館内催事の開催により県産品の紹介、販売を推進した。

（単位：千円）

|        | 17年度実績  | 18年度実績  | 19年度実績  | 20年度実績  |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 売上高    | 184,743 | 207,126 | 237,615 | 245,080 |
| 対17年度比 | -       | 12.1%   | 28.6%   | 32.7%   |

- (2) 県産品に関する資料の収集、調査及び説明  
市町村物産協会連絡会議や物産展出展業者連絡会議において、県産品に関する情報交換等を行った。  
また、新規取扱商品の特徴やおすすめ内容をPRするとともに、マスコミに報道された新たな県産品情報を把握することにより、出品・出展を促した。

|        | 17年度実績 | 18年度実績 | 19年度実績 | 20年度実績 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 取扱品目数  | 2,096  | 2,305  | 2,364  | 2,608  |
| 対17年度比 | -      | 10.0%  | 12.8%  | 24.4%  |

- (3) 観光案内の方法及び内容  
観光パンフレットコーナーに県内全市町村の観光パンフレットを常設し、お客様に情報を提供するとともに、イラストマップ機器、映像提供機器を整備し紹介した。
- (4) 県産品と観光に関する情報及びニーズの把握  
展示、販売商品の売れ行き動向やマスコミに報道された新商品情報を把握することにより、商品の改廃に努めるとともに、生活行事に対応した商品や季節商品の展開、入れ替えにより、県産品の情報提供の活性化を図った。  
また、福島県ブランド認証酒コーナーや、新たなブランド認証商品の展示販売などにより、県産品情報を提供した。  
観光については、常設のパンフレットのほか、季節情報は必要資料を収集し、情報を提供した。
- (5) ホームページの作成・更新  
催事内容の案内やチラシ情報の掲載など、随時ホームページの更新を行うことにより、県産品のPRと観光物産館の集客を推進した。
- (6) 観光物産館を使用した交流イベントやPR活動による情報の発信及び提供  
館内イベントは、各関係機関および出展者の協賛・協力のもとに実施し、チラシ作成や情報

誌への掲載により情報発信を行った。

館内イベント来客（購買）者数：3,891人（3,228人、20.5%増加）

4 経費の節減に関する事項（通年）

人件費・事業費ともに縮減に努めた結果、17年度対比及び前年度対比のいずれにおいても経費の節減が図られた。

（単位：千円）

| 項目  | 17年度経費A | 18年度経費 | 19年度経費 | 20年度経費B | 差額B-A | 対17年度比 |
|-----|---------|--------|--------|---------|-------|--------|
| 人件費 | 40,252  | 36,390 | 38,598 | 36,827  | 3,425 | 91.5%  |
| 事業費 | 25,732  | 27,876 | 26,406 | 25,599  | 133   | 99.5%  |
| 計   | 65,984  | 64,266 | 65,004 | 62,426  | 3,558 | 94.6%  |

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

運営に関する事項（通年）

オープン5周年フェアや継続開催しているニットフェア等に加えて、市町村単位のフェア開催を増加するなど、地産地消を推進するとともに、魅力あるイベントの実施に努めた。

2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

1 施設及び設備の維持管理に関する事項

善良なる管理者の注意義務をもって実施し、適正に管理されたことから、適切に実施されたと判断する。

2 防災・安全対策に関する事項

訓練等により職員の防災・安全意識が向上し、社内基準による各種防犯対策や緊急連絡網の整備等により、事故・トラブルが発生しなかったことから、適切に実施されたと判断する。

3 運営に関する事項

平成20年度の売上高が245,080千円と対前年度比3.1%の増加となり、また、取扱品目数も2,608品目と対前年度比10.3%の増加となっていることから、県産品の展示、紹介及び流通の促進が図られ、適切に実施されたと判断する。

4 経費の節減に関する事項

人件費及び事業費の縮減など、効率的な事務事業の執行に努めており、概ね適切に実施されたと判断する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

新しい県産品や出展者の掘り起こしに努めており、概ね適切に実施されたと判断する。引き続き観光物産館の魅力を高めるため、絶えず掘り起こしに努める必要がある。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等             |
|----------|-------|----|--------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。  |
| 月例報告     |       | 12 | 各状況（販売、取扱品目、イベント、問合せ）の報告 |
| 四半期報告    | ×     |    |                          |
| 定期立入検査   | ×     |    |                          |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                          |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認         |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                          |
| その他      | ×     |    |                          |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

運営に関する事項（通年）

(1) 世界的な経済危機下における消費不況など厳しい経営環境にあるが、優良産品の発掘など絶えず陳列商品の充実や魅力ある売場づくりに取組み、県産品の振興を図る。

(2) 消費者ニーズ、商品の売れ行き状況を絶えず把握して、生産者等にフィードバックし、新商品の開発、売場づくりに反映できるよう、アンテナ機能の充実を図る。

|      |                  |        |                 |
|------|------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | 福島県産業交流館         | 指定管理者名 | (財)福島県産業振興センター  |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 商工労働部観光交流局観光交流課 |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 産業交流館の使用の承認に関する事項（通年）

福島県産業交流館条例に基づいて審査を行い、適正かつ公平な使用承認を実施した。また、利用者の利便向上を図るため、利用者との事前打合せを実施し、イベントや会議が円滑に実施できるよう支援した。

#### 【使用承認件数の推移】

| 区 分        |       |       |       |       | -   | / (%) |
|------------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 多目的展示ホール   | 119   | 132   | 134   | 128   | 9   | 107.6 |
| コンベンションホール | 307   | 291   | 266   | 305   | 2   | 99.3  |
| その他会議室等    | 1,533 | 1,542 | 1,511 | 1,416 | 117 | 92.4  |

### 2 産業交流館の利用料金の徴収に関する事項（通年）

利用料金の納入状況については、適宜状況を把握し、納入期限内における確実な納入を推進した。

### 3 産業交流館の維持管理に関する事項（通年）

施設の適切な管理のために、計画的に修繕を行った。再委託業務の委託業務内容や入札方法の見直しにより、維持管理経費の節減を行った。

### 4 産業交流館の運営に関する事項（通年）

緊急連絡網の整備、消防防災訓練の実施、安全対策協議会の開催により、防災・安全対策に万全を期し、来館者の安全確保に努めた。

主催者及び利用者アンケートの実施、常駐業者を交えての満足度向上対策会議の開催により、利用者のサービス向上に努めた。また、多目的展示ホールの照明灯を交換し床面照度を明るくすることにより顧客サービスの向上に努めた。

コンベンション誘致については、県や郡山コンベンションビューロー等各種団体との連携、福島県コンベンション等開催支援事業等の活用によって、医学関係の学会など地域経済への波及効果が大きな大会等について積極的な誘致活動を展開した。

### 5 経費の節減に関する事項（通年）

保守管理委託業務及びカレンダー、ノベルティグッズ等の発注に際して入札を実施することにより、経費の節減を図ったが、燃料価格高騰により光熱水費が増加したほか、利用者のサービス向上を図るため備品等の修繕を実施したことにより一般管理費が増加した。

また、施設利用の活性化を図るため自主企画事業を開催したことにより、広報企画費が増加した。

(単位：千円)

| 項 目    | 経費 A    | 経費 B    | 経費 C    | 経費 D    | 差額 D-A | 対 17 年度比 |
|--------|---------|---------|---------|---------|--------|----------|
| 一般管理費  | 93,744  | 84,935  | 94,016  | 96,137  | 2,393  | 102.6 %  |
| 保守管理業務 | 188,704 | 162,825 | 133,882 | 127,067 | 61,637 | 67.3 %   |
| 広報企画費  | 13,627  | 12,012  | 10,917  | 21,244  | 7,617  | 155.9 %  |
| 計      | 296,075 | 259,772 | 238,815 | 244,448 | 51,627 | 82.6 %   |

### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

#### 1 産業交流館の運営に関する事項（県・指定管理者 通年）

施設利用の活性化を図るため、平成19年度から取り組んだ自主企画事業「パレット縁日」に加えて「Gipsy Nico コンサート」を実施した。

(「パレット縁日」開催日 H20.8.15～8.16 来場者数 18,000人)

(「Gipsy Nico コンサート」開催日 H20.11.23～11.24 来場者数 800人)

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

- 1 産業交流館の使用の承認に関する事項  
福島県産業交流館条例に従った審査を行い、利用者からの苦情もなく、適切な使用承認が行われていると判断する。
- 2 産業交流館の利用料金の徴収に関する事項  
利用料金はほぼ完納されており、適切に業務を遂行していると判断する。
- 3 産業交流館の維持管理に関する事項  
平成20年度の維持管理経費は、委託業務内容や入札方法の見直しによって予算額を下回っており、積極的な経費節減に努めていると判断する。
- 4 産業交流館の運営に関する事項  
平成20年度の利用実績は、多目的展示ホールの稼働率は目標を下回ったものの前年度と同程度、コンベンションホールの稼働率は目標を上回り高稼働率となっており、産業交流館の効果的な活用に貢献していると判断する。  
また、利用者からのアンケート結果も、職員の対応が高い評価を受けており、利用者のサービス向上に積極的に取り組んでいると判断する。
- 5 経費の節減に関する事項  
平成20年度の維持管理経費は、委託業務内容や入札方法の見直しによって予算額を下回っており、積極的な経費節減に努めていると判断する。

### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

- 1 産業交流館の運営に関する事項  
自主企画事業により、産業交流館の効果的な活用に貢献していると判断する。

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                                  |
|----------|-------|----|---|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。                       |
| 月例報告     |       | 12 | 利用料金の収入額、施設及び備品の利用状況、利用予約状況、利用者等からの苦情及びその対応状況 |
| 四半期報告    | ×     |    |   |
| 定期立入検査   | ×     |    |   |
| 不定期立入検査  |       | 1  | 管理運営状況及び小修繕の確認                                |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況、個人情報保護実施状況の確認                   |
| 外部委員等評価  | ×     |    |   |
| その他      |       |    |   |

### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

- 1 産業交流館の使用の承認に関する事項  
20年度に引き続き、適正かつ公平な使用の承認に努める。
- 2 産業交流館の利用料金の徴収に関する事項  
納入状況の把握に努め、利用料金の滞納が生じないよう適切に管理する。
- 3 産業交流館の維持管理に関する事項  
計画的に修繕・補修を行い、施設の適切な維持管理に努める。

4 産業交流館の運営に関する事項（県・指定管理者）

設置目的に合致した誘致活動を積極的に実施するとともに、利用者の立場に立った施設利用への助言や支援等を行うことにより、産業交流館の更なる利活用に努める。また、ホームページを利用したより効果的な情報発信に努める。



|      |                           |        |                 |
|------|---------------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | 天鏡閣、国民宿舎翁島荘               | 指定管理者名 | (財)福島県観光物産交流協会  |
| 指定期間 | H20.4.1(H18.4.1)～H21.3.31 | 担当課名   | 商工労働部観光交流局観光交流課 |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

- 1 天鏡閣保守管理業務に関する事項(指定管理者 通年)  
国指定重要文化財としての価値を損なうことのないよう、適正な保守管理に努める一方、繁忙期、閑散期に対応した職員の配置、効率的な事務運営による経費削減に努めた。
- 2 天鏡閣運營業務に関する事項(指定管理者、県 通年)  
猪苗代湖畔の森活性化推進協議会と連動した広報事業、キャンペーン、イベント等の実施、食堂を活用した商品の販売、福島県迎賓館(旧高松宮翁島別邸)の特別公開をセットにした商品、「地域の宝夢実現プロジェクト」関連事業による旅行商品の販売等を通じて、入館者数の増加を図った。また、建築100周年記念事業を第20回全国生涯学習フェスティバル協賛事業として実施し、期間中5,524人の入館者があったが、外壁塗装工事中の入館者の減少を補うことは出来ず、前年比3,305人減(27,962人)となった。
- 3 国民宿舎翁島荘管理業務に関する事項(指定管理者 通年)  
県民に健全な保健休養の場を提供し、県民生活の福祉向上を図るという設置目的を達成するため、利用者のサービス向上に努める一方、1年単位の変形労働時間制の導入、効率的な事務運営による経費削減に努めた。また、アンケートによりお客様の声を聞く機会を設け、食事メニューへの県産品活用、冷暖房温度のこまめな調整、障害者用駐車スペースの確保、故障備品の速やかな修繕等、サービス向上を図った。
- 4 国民宿舎翁島荘運營業務に関する事項(指定管理者 通年)  
天鏡閣・迎賓館を活用した企画商品の販売、猪苗代湖畔の森活性化推進協議会との連携による自然観察会、星座観望会等の開催、情報誌の発行や、翁島荘限定商品(天鏡閣ケレー、会津わっぱ飯定食、迎賓館四季菓撰等)の販売等による積極的なセールスを展開し、宿泊者及び休憩者の増加を図った。しかし、宿泊者数を増加させることはできず、平成20年度宿泊者数は前年比1,714人減(9,977人)、休憩者数は前年比19人増(209人)となった。  
なお、国民宿舎翁島荘は、平成21年3月22日をもって営業を終了した。

#### 【利用者数の推移】

| 区 分     |        |        |        |        | -     | / (%)   |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|
| 天鏡閣入館者数 | 33,065 | 33,322 | 31,267 | 27,962 | 5,103 | 84.6(%) |
| 翁島荘宿泊者数 | 13,849 | 12,799 | 11,691 | 9,977  | 3,872 | 72.0(%) |

### 5 経費の節減に関する事項(指定管理者 通年)

- (1) 人件費の削減  
職員給与の見直し(昇級延伸の実施、期末勤勉手当の削減等)を実施し人件費の削減を図った。
- (2) 施設運営経費の経費削減  
燃料価格高騰に伴う燃料費・光熱水費が1,380千円増加したものの、施設利用者に対する極端なサービスの低下を招かない範囲において、内容、実施回数、時期等を積極的に見直し、経費の削減を図った。
- (3) 事務経費の削減  
職員のコスト意識の徹底や消耗品費の購入抑制による事務経費の削減を図った。
- (4) 営業費用は商品費・食事材料費の原材料費であり、新たな仕入れ先の開拓を行うなどしてコストの削減に努めた。

(単位:千円)

| 項 目   | 経費 A    | 経費 B    | 経費 C    | 経費 D    | 差額 D-A | 対 17 年度比 |
|-------|---------|---------|---------|---------|--------|----------|
| 人 件 費 | 79,783  | 79,017  | 71,550  | 71,033  | 8,750  | 89.0%    |
| 一般管理費 | 55,900  | 54,189  | 61,801  | 52,084  | 3,816  | 93.2%    |
| 営業費用  | 34,360  | 36,180  | 39,171  | 38,693  | 4,333  | 112.6%   |
| 計     | 170,043 | 169,386 | 172,522 | 161,810 | 8,233  | 95.2%    |

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

新たな観光ルートの提案および対外的な情報を発信するため「ふくしまの歴史と文化の回廊・近代の洋風建築をめぐるスタンプラリー」を関係市町村等の協力を得て実施した。

2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

- 1 天鏡閣保守管理業務に関する事項  
 繁閑に対応した職員の柔軟な配置、消耗品費の購入抑制等、経費削減のための努力を積極的に実施していると判断する。
- 2 天鏡閣運営業務に関する事項  
 外壁改修工事のため、平成20年度の入館者数は減少したものの、積極的な広報事業、キャンペーン、イベント等の実施、天鏡閣を組み入れた旅行商品の販売促進等、入館者増のための各種施策を展開しており、その努力は評価できる。
- 3 国民宿舎翁島荘管理業務に関する事項  
 変形労働時間制の導入、消耗品費の購入抑制等、経費削減のための努力を積極的に実施していると判断する。
- 4 国民宿舎翁島荘運営業務に関する事項  
 国民宿舎翁島荘の廃止報道及び3月22日での営業終了により、宿泊者数は減少したが、各種団体との連携によるイベント開催や、企画商品の開発・販売等、宿泊者増及び収益確保のための各種施策を展開しており、その努力は評価できる。
- 5 経費の節減に関する事項  
 変形労働時間制の導入、消耗品費の購入抑制等、経費削減のための努力を積極的に実施していると判断する。また、退職者不補充等、人件費抑制策も経費削減に大きく貢献している。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

天鏡閣・迎賓館を活用した観光ルートの開発に努めており、概ね適切に実施されたと判断する。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等  |
|----------|-------|----|---|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。   |
| 月例報告     |       | 12 | 天鏡閣の入館者数、入館者等からの苦情及びその対応状況、国民宿舎翁島荘の利用料金等の収入額、宿泊者等の利用者数及び稼働率、利用者等からの苦情及びその対応状況 |
| 四半期報告    | ×     |    |   |
| 定期立入検査   | ×     |    |   |
| 不定期立入検査  | ×     |    |   |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況、個人情報保護実施状況の確認   |
| 外部委員等評価  | ×     |    |   |
| その他      |       |    |   |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

- 1 天鏡閣保守管理業務に関する事項（通年）  
 引き続き、国指定重要文化財としての価値を十分に尊重しながら、効率的な保守管理業務による経費削減に努める。

2 天鏡閣運營業務に関する事項（指定管理者、県 通年）

天鏡閣館内の施設を活用した体験型企画商品の開発、天鏡閣を活用したフィルムコミッションの展開、県内の近代洋風建築と連携した旅行商品の開発等、天鏡閣のPRと入館者のサービス向上につながる企画事業を展開し、更なる入館者増に努める。

|      |                  |        |                       |
|------|------------------|--------|-----------------------|
| 施設名  | ふくしま県民の森         | 指定管理者名 | (財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 農林水産部森林整備課            |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の利用者数の増

- (1) 平成18年度に開始した「FEL 会員制度」により、特定の期日の割引制度や特別イベントの実施などサービスの向上を図った。
- (2) 森林に関わる学校プログラムの開発を行い、実施プランを提供した。
- (3) 目標数値に対する実績
  - オートキャンプ場
    - 目標：53,500人
    - 実績：46,422人（86.8%）（平成19年度実績：47,431人）
  - 森林館
    - 目標：9,530人
    - 実績：12,134人（127.3%）（平成19年度実績：10,689人）
  - 合計
    - 目標：63,030人
    - 実績：58,556人（92.9%）（平成19年度実績：58,120人）

### 2 主催事業の参加者数の増

- (1) 多様なレクリエーションプログラムを開発提供し、また教育指導者を対象に研修プログラムを実施した。
- (2) 森林に関わる様々な情報の集積と提供を行うことにより、イベントの参加者を募った。
- (3) 数値目標に対する実績
  - 各種プログラムの参加者数
    - 目標：5,685人
    - 実績：7,014人（123.4%）（平成19年度実績：8,393人）
  - 学校教育関係団体利用者数
    - 目標：72団体、8,920人
    - 実績：110団体（150.7%）、10,778人（120.8%）  
（平成19年度実績：116団体 11,128人）

### 3 管理経費の節減

事務費等については光熱水費の節減、小修繕の直営などにより節減を図った。

（単位：千円）

| 事項   | 項目       | 実績A    | 実績     | 実績     | 実績     | 差額B-A |
|------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 人件費等 | 人件費      | 27,494 | 23,885 | 25,517 | 24,497 | 2,997 |
|      | 事務費      | 21,646 | 21,413 | 18,663 | 17,920 | 3,726 |
| 修繕費  | 管理者対応修繕費 | 10,415 | 7,132  | 4,311  | 3,531  | 6,884 |
|      | 県対応修繕費   | 21,000 | 26,122 | 12,332 | 12,918 | 8,082 |

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

- 1 地元大玉村と連携し、森林環境を総合的に使いながら健康を増進する「フォレストセラピーおたまたまフォーラム」を実施した。
- 2 「フォレストパークあだたら10周年記念」として全ての事業内容について充実化を図った。
- 3 平成19年度から「自然環境基礎調査事業」を福島大学と連携し行い平成20年度は福島大学で作成した「ふくしま県民の森の水生昆虫」のリフレットの提供を受け利用者へ環境教育の資料として活用している。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

### 1 施設の利用者数の増

会員制度を継続し、リピーターや新規利用者を対象にサービス向上を図り、学校関係者へ森林

に関するプログラムを開発、提供するなど利用者増への取組が適切に実施されたと判断する。

利用者数実績はオートキャンプ場の利用者は目標を下回ったが、昨年度はキャンプハイシーズンのガソリン価格の高騰や深刻な経済状況などが大きく影響していることから、利用者の減少はやむを得ない結果と判断される。また、森林館での利用者は目標を上回り、学校関係者向けのプログラムの提供などの取組が適切に実施された結果と判断する。

## 2 主催事業の参加者数の増

多様な野外活動プログラムや森林環境教育プログラムを開発、提供する等参加者増への取組が適切に実施されたと判断する。

参加者実績はニーズに合致したプログラムの提供により、各種プログラムの参加者数、学校教育関係団体利用者数ともに目標を上回っており、事業内容の改善や充実化を図りながら、積極的に取り組んだ結果と判断される。

## 3 管理経費の節減

経費節減のための努力を積極的に実施しているものと判断する。

### 【平成20年に新たに取り組んだ項目の評価】

- 1 地元の村と連携し新たな事業に取り組む利用拡大に向けた積極的な努力をしている。
- 2 全ての事業について内容の充実化や企画回数を増やすなど努力の結果が見られる。
- 3 福島大学と連携しふくしま県民の森の自然環境について調査しており、その結果を利用者へ自然環境教育の資料として活用し、ふくしま県民の森の目的である自然との共生思想の向上及び普及を図るため努力している。

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                |
|----------|-------|----|-----------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画の内容確認。                  |
| 月例報告     | ×     |    |                             |
| 四半期報告    |       | 4  | 一般管理及び緑地管理業務、利用者数、イベントの開催状況 |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく立入検査               |
| 不定期立入検査  |       | 2  | 管理運営状況（刈り取り・除草）及び修繕の確認      |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認            |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                             |
| その他      |       |    |                             |

### 【年度内の主な指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度の取り組み（指定管理者）

### 1 施設の利用者数の増

利用者増を図るために会員制度を継続するとともに、さらにPR活動を徹底し周知を図る。

### 2 主催事業の参加者数の増

継続して多様な野外活動プログラムや森林環境教育プログラムを提供し、一般利用者及び学校関係者の利用増を図る。

### 3 管理経費の節減

昨年同様、人件費及び維持管理経費等の節減に努める。

|      |                  |        |                 |
|------|------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | 福島県総合緑化センター      | 指定管理者名 | (財)福島県都市公園・緑化協会 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 農林水産部森林整備課      |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の利用者数の増

年間の利用者数：目標 151 千人 実績 182,405 人(120.5%)（前年度比で 111.7%）  
 利用者の増加及びサービス向上を図るため、次の項目を実施した。

#### (1)開園日の拡大

休園日となっている第三日曜日も開園した。

#### (2)各種イベントの開催

みどりに関する各種教室や体験教室、展示会などを開催した。

また、地域との連携事業として、地域の観光や地場製品のPRと販売を目的としたさくらまつりやみどりのフリーマーケットを開催した。

#### (3)高齢者誘致の取り組み

前年度に引き続き、近隣の高齢者福祉施設に定期的に園内の花情報やイベント開催案内を提供した。

#### (4)一般利用者誘致への取り組み

当公園を広くPRするため、官公庁をはじめドライブインや温泉などの観光施設での園内パンフレット配布に取り組んだ。

#### (5)園内散策者増加への取り組み

昨年度に引き続き、ウォーキングコース沿いに150枚の植物名板を取り付けた。

#### (6)子供たちの利用増加への取り組み

総合学習や森林学習などの活動を積極的に受け入れるとともに、みどりに関する資料等の提供を行った。

### 2 主催事業の参加者数の増

#### (1)講習会タイプの主催事業への取り組み

新たに開催した「きのこ教室」を含め、昨年度に引き続き各種講習会を開催した。

#### (2)公園発見PRタイプの主催事業への取り組み

園内を再発見してもらうことを目的とした「フォトコンテスト」や「みどりの日苗木無料配布」を引き続き開催した。

#### (3)自然発見・学習タイプの主催事業への取り組み

NPO法人福島県もりの案内人の会との協働事業による定期的な自然体験などを行った。

#### (4)作品展示タイプの主催事業への取り組み

「公園フォトコンテスト」の入賞作品と「夏休み未来の公園絵画」に応募のあった絵画を展示した。また、盆栽展を開催した。

### 3 管理経費の節減

#### (1)人件費の削減

当協会が管理する公園で職員の相互活用を図るとともに、適正な職員の配置とその育成に努め、少数精鋭での管理を行った。また、職員給料の据え置きや賞与、旅費制度、被服貸与の見直しを行った。

なお、平成20年度は退職給与引当積立金が増加したため、人件費が17年度実績より増加している。

#### (2)施設の維持管理経費の節減

こまめな消灯、温度管理に努め、電気や灯油の節減を図るとともに日々の検針を徹底し、省エネに取り組んだ。

#### (3)明確な管理区分による維持管理費の節減

動植物や野鳥との共生も踏まえ、明確な管理区分を設定し、効率的な管理によりコスト縮減に取り組んだ。

#### (4)公園発生材の再利用による維持管理費の節減

伐採等で発生した丸太を階段や杭木として利用し、購入費の削減を図った。

(単位：千円)

| 事項   | 項目       | 実績 A   | 実績     | 実績     | 実績 B   | 差額 B - A |
|------|----------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 人件費等 | 人件費      | 18,076 | 15,516 | 16,506 | 18,942 | 866      |
|      | 事務費      | 25,821 | 25,524 | 24,234 | 22,950 | 2,871    |
| 修繕費  | 管理者対応修繕費 | 535    | 1,137  | 977    | 536    | 1        |
|      | 県対応修繕費   | 2,453  | 2,410  | 859    | 1,453  | 1,000    |

## 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

## 1. おうせパーク友の会の設置

公園に親んでもらうことと再利用を促すため、定期的な園内情報の発信や各種教室などの参加料を割引する特典を付した友の会を設置した。

## 2. オオムラサキの棲む森作り

国蝶オオムラサキの数を増やすため、食餌植物であるエノキ20本を地域子供クラブと協働で植栽した。なお、植栽や観察ゲージの作成など継続して行っていく。

## 3. きのご教室

きのご食・毒についての判定問合せが窓口が多いことから日本菌学会会員に講師を依頼し、見分け方や食べ方の教室を開催した。

## 4. ノルディックウォーキングクラブの設立

ストックを持って歩くことで全身運動となり、健康づくりに役立つノルディックウォーキングのクラブを立ち上げ、定期的(月2回)に体験会・練習会を開催した。

## 5. 寄植え作り

地域との連携事業として、地元の公民館と協働で寄植え作りの教室を開催し、植物の手配や講師派遣を行った。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

## 1 施設の利用者数の増

入園者、施設の利用者が前年度を上回った。行事は、年間を通じてレクリエーション的なものから専門性のあるものまで時節を考慮しながら多彩な内容を盛り込んでおり、利用者の健康増進、緑化に対する啓発に大きく寄与している。

## 2 主催事業の参加者数の増

新たなイベントを導入するなどして、努力の結果が見られる。

## 3 管理経費の節減

経費削減のための努力を積極的に実施しているものと判断する。

## 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

「おうせパーク友の会」を立ち上げて、利用の促進を図り、ノルディックウォーキングクラブを設立し新たな健康づくり運動の周知と定着を図るなど利用拡大に向けて積極的な取り組みがなされている。また、オオムラサキの棲む森作り、きのご教室など創意工夫や実用に即した企画など緑化活動の拠点として満足度の高いサービスの提供に努めている

## 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                |
|----------|-------|----|-----------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画のヒアリングを行い必要な指示を行った。     |
| 月例報告     |       | 12 | 一般管理及び緑地管理業務、利用者数、イベントの開催状況 |
| 四半期報告    | ×     |    |                             |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく立入検査               |
| 不定期立入検査  |       | 2  | 修繕の確認                       |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認            |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                             |
| その他      |       |    |                             |

## 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

#### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

##### 1 施設の利用者数の増

平成21年度の目標は180千人とする。

- (1) 前年度に引き続き、各種教室やイベントを開催し、公園利用者の増加を図る。
- (2) 設置目的であるみどりの啓発・普及をさらに高めるため、新たに県・市町村、造園業者などを対象とした「グリーンセミナー」「関連団体との連携による緑化の推進」「みどりの伝言板の設置」「みどりの図書館設置」「新たな緑化樹木・草花展示植栽」など新規事業を展開する。
- (3) 高齢者福祉施設に対して、園内の花情報やイベント情報を発信し、公園利用を促していたが新たに花壇作りなどみどりと触れ合える場所と資材・技術の提供を行い、公園に親しみを持ってもらう。
- (4) 「出逢いの公園作り」の一環として、園内にある史跡や見所などを巡る「出逢いマップ作り」を公園利用者とともにを行い、公園のPRに努めていく。
- (5) 自主事業検討会、逢瀬ボランティア、逢瀬パーク友の会と定期的な意見交換を行い、各種教室やイベント、管理運営に対しての意見・要望を聞き、参考としていく。

##### 2 主催事業の参加者数の増

各タイプごとの事業内容の充実を図るとともに、新たなイベントの開催を含めさらに魅力あるのとし、誰もが参加しやすい日時での開催を企画する。

##### 3 管理経費の節減

管理に使用する機械、器具等は協会が管理する他公園と効率的な利用を図り、また園内から発生する丸太や剪定枝、落ち葉などはリサイクルを行い、維持管理経費の節減に努める。



|      |                  |        |             |
|------|------------------|--------|-------------|
| 施設名  | 福島県昭和の森          | 指定管理者名 | (財)猪苗代町振興公社 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 農林水産部森林整備課  |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の利用に関すること（指定管理者通年）

#### (1) サービス向上の取組み

ホームページの更新（20年4月）

ホームページを更新し、施設内の樹木の開花状況や主催事業等催事の案内を行った。

ホームページアクセス件数81,997件（前年度90,481件）

昭和の森来園者に対するアンケート直送はがきの設置（20年4月～11月）

施設の利用に関し、管理の改善を目的として、料金受取人払いのダイレクトメールのご意見はがきを施設内に設置した。

#### (2) 自然体験教室の開催

イベントをPRするチラシと、ホームページ・新聞紙面で参加者募集を行った。

10月25日、「アドベンチャー in 昭和の森、ムー爺さんと遊ぼうよ～」と題して、親子30人が参加し松ぼっくり拾い・どんぐり探しなど森の中を探索してゴールを目指した。

#### (3) 来園者・利用者の管理目標に対する実績

目標：98,230人

実績：96,672人（対目標比98%、対前年比99%）

（平成19年度実績：97,962人）

### 2 維持管理に関すること（指定管理者通年）

(1) 昭和の森の樹木・芝生等の維持管理、建物内・園路・芝生及びトイレ等の清掃については、美観又は衛生において良好な状態を保つように業務仕様書に基づき、業務管理スケジュールをたて計画的に実施した。

(2) 日常点検及び保守点検については、業務仕様書に基づき、業務管理スケジュールをたて、安全面・衛生面・機能面の確保がなされるように注意し実施した。保守点検は専門の業者に業務を委託し、実施した。

施設巡回等による警備も、業務仕様書に基づき、毎日実施した。設備等に破損や故障が発生し、利用者の安全を脅かす事態や事象が発生したときは、利用者の安全確保に必要な措置をとるための連絡体制を取っている。

修繕については、早急の場合、計画的な場合等必要に応じ適切な対応を図っている。

(3) 平成19年度に引続き、既存林地管理業務の一部直営化により、委託管理経費の削減を図った。

（単位：千円）

| 事項   | 項目       | 実績A   | 実績    | 実績    | 実績B   | 差額B-A |
|------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人件費等 | 人件費      | 7,979 | 6,531 | 5,583 | 4,984 | 2,995 |
|      | 事務費      | 7,754 | 6,896 | 6,255 | 5,923 | 1,831 |
| 修繕費  | 管理者対応修繕費 | 109   | 153   | 84    | 266   | 157   |
|      | 県対応修繕費   | 0     | 135   | 284   | 263   | 263   |

#### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

NPO 法人会津の森を育む協議会が「林業教室」を実施する際に安全面の確保などの活動の支援を行い、団体利用者が利用しやすい体制をとった。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

### 1 施設の利用に関すること

(1) サービス向上のため、昭和の森についてホームページを作成し、施設の内容・催事のお知らせ・アクセス案内を行うなど適正に処理されている。

(2) 昭和の森来園者に対するアンケート直送はがきを設置するなど、来園者の増加とサービス向上にむけた努力がみられ、適正に処理されている。

主催事業については、複数の応募手段により参加者を公募し、事業を適正に実施することができた。

(3) サービス向上に向けての取組状況の把握のため、管理目標値の設定を行っており、適正に処理されている。

## 2 維持管理に関すること

(1) 昭和の森の樹木・芝生等の維持管理、建物内・園路・芝生及びトイレ等の清掃については、美観又は衛生において良好な状態を保つよう業務仕様書に基づき、業務管理スケジュールをたて計画的に実施しており、適正に処理されている。

(2) 日常点検及び保守点検については、業務仕様書に基づき、業務管理スケジュールにより実施し、施設巡回等による警備も、業務仕様書に基づき、適切に実施されている。

設備等に破損や故障が発生し、利用者の安全を脅かす事態や事象が発生した場合は、利用者の安全確保に必要な措置をとるための連絡体制を整備しており、適正に処理されている。

修繕については、早急の場合、計画的な場合等必要に応じ、被害の報告及び協議により適切な対応を図っており、適正に処理されている。

(3) 既存林地管理業務の一部を平成19年度に引続き直営で実施したが、業務内容は適正に履行されて経費の削減が図られており、適正に処理されている。

### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

NPO 法人の活動支援の体制をとり、森林学習の場としての利用拡大に努めた。

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等     |
|----------|-------|----|------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画内容の確認        |
| 月例報告     | ×     |    |                  |
| 四半期報告    |       | 4  | 管理業務の実施状況、利用状況   |
| 定期立入検査   |       | 1  | 事業報告書に基づく確認検査    |
| 不定期立入検査  |       | 3  | 修繕の確認、下刈り等緑地管理確認 |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                  |
| その他      |       |    |                  |

### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

(1) 平成20年度に引続き、利用者へのサービス向上のため、施設の維持管理を適正に執行するとともに、継続して利用促進のためのPRを行う。主催事業としては、募集参加型の自然体験教室をさらに充実させ、参加者の増に努める。

(2) 施設・設備等の破損や故障及び異常気象により、利用者の安全を脅かす事態が発生した場合、安全確保に必要な措置をとるための連絡体制の整備と確認を行い、継続してリスク管理に努める。

|      |                  |        |            |
|------|------------------|--------|------------|
| 施設名  | 小名浜港マリーナ施設       | 指定管理者名 | 小名浜マリーナ(株) |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 土木部港湾課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 施設概要

- (1) 浮棧橋(メイン棧橋1基、一時係留棧橋1基(18隻)、給油棧橋1基、くし型棧橋4基(166隻))  
(2) 船揚場(540㎡)  
(3) 揚降施設(自走式揚艇機1機、足場棧橋1基)  
(4) ポートヤード; ディンギーヤード含む(16,440㎡、ポート・ヨット107隻、ディンギー60隻)  
(5) 駐車場(2,411㎡)  
(6) その他(マリーナ施設内の港湾施設用地及び各種設備)  
(7) 周辺マリーナ緑地

### 2 保管隻数実績

(各年度3月現在)

| 種 類      | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 対17年度比 |
|----------|------|------|------|------|--------|
| モーターボート  | 73   | 74   | 74   | 79   | 108.2% |
| クルーザーヨット | 27   | 26   | 25   | 22   | 81.5%  |
| 小計       | 100  | 100  | 99   | 101  | 101.0% |
| ディンギー・他  | 57   | 56   | 52   | 47   | 82.5%  |
| 合計       | 157  | 156  | 151  | 148  | 94.3%  |
| 陸上保管     | 74   | 74   | 68   | 66   | 89.2%  |
| 海上保管     | 83   | 82   | 83   | 82   | 98.8%  |

### 3 利用料収入実績

(単位:千円)

| 利用料収入   | 17年度   | 18年度   | 19年度   | 20年度   | 対17年度比 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 保管料収入   | 62,911 | 65,225 | 63,993 | 69,545 | 110.5% |
| その他の利用料 | 3,705  | 5,105  | 4,329  | 4,506  | 121.6% |
| 合計      | 66,616 | 70,330 | 68,322 | 74,051 | 111.2% |

### 4 各種サービスの提供、イベントの開催等

ヨットクルーザーのポイントレースやフィッシングダービー等例年開催するイベントのほか、9月13,14日開催された「いわきマリンフェスティバル2008」において、福島ビルフィッシュトーナメントの検量やマリンスポーツの体験などの交流イベントを開催。約3万3千人の来場者があり、マリーナのPRと地域振興に貢献した。

### 5 経費の削減

指定管理者導入前より、利用料金制により管理業務経費を賄うこととしており、県からは緑地管理業務に係る費用のみを支払っている。

- ・マリーナ周辺緑地管理業務委託料の削減

(単位:千円)

|           | 17年度  | 18年度  | 19年度  | 20年度  | 対17年度比較 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 緑地管理業務委託料 | 7,976 | 2,714 | 2,714 | 2,714 | 5,262   |

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

無し

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

年間保管隻数は、17年度を下回っているが、ビルフィッシュトーナメント等のイベントが月極保管隻数(199 336)やビジター(134 544)の増に結びついており、利用料収入は伸びている。

原油高騰、景気の落ち込みなどレジャー産業にとって逆風の中、各種サービスの提供やイベントの開催による集客を図っており、着実に成果を上げている。

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

無し

## 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等            |
|----------|-------|----|-------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 業務内容、業務経費               |
| 月例報告     | ×     |    |                         |
| 四半期報告    |       | 4  | 年度・期中決算報告               |
| 定期立入検査   | ×     |    |                         |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                         |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務実施状況、利用料金、目標達成状況、業務経費 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                         |
| その他      |       |    |                         |

### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし。

## 4 平成21年度の実績(指定管理者)

売上・利益拡大対策の再構築を図るため、人員体制、投資計画等を盛り込んだ経営計画の立案、「おなはま海の駅」「小名浜みなとオアシス」の認知度UPを通じた地域の活性化への貢献、効果的な広告宣伝「呼んで、見せて、乗せて、顧客化」を展開し、施設利用者の増加を図るなど、引き続き管理運営目標及び取組方針に基づいた取組を行う。

|      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 施設名  | 翁島港マリーナ          | 指定管理者名 | マリーナ・レイク猪苗代(株) |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 土木部港湾課         |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設概要

- (1) 浮棧橋（254m、24バース）
- (2) 船揚場（1, 210㎡）
- (3) 固定式揚降機1基
- (4) ボートヤード；ディンギーヤード含む（10, 900㎡、ボート・ヨット101隻、ディンギー・水上オートバイ151隻）
- (5) 駐車場（2, 570㎡）
- (6) その他（マリーナ施設内の港湾施設用地及び各種設備）

### 2 保管隻数実績（各年度3月現在）

| 種 類      | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 対17年度比 |
|----------|------|------|------|------|--------|
| モーターボート  | 37   | 32   | 36   | 35   | 94.6%  |
| クルーザーヨット | 15   | 14   | 13   | 14   | 93.3%  |
| 小計       | 52   | 46   | 49   | 49   | 94.2%  |
| ディンギー・他  | 8    | 6    | 8    | 9    | 112.5% |
| 合計       | 60   | 52   | 57   | 58   | 96.7%  |

### 3 利用料収入実績（単位：千円）

| 利用料収入   | 17年度   | 18年度   | 19年度   | 20年度   | 対17年度比 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 保管料収入   | 30,292 | 29,091 | 26,425 | 27,477 | 90.7%  |
| その他の利用料 | 4,033  | 3,530  | 3,931  | 4,193  | 104.0% |
| 合計      | 34,325 | 32,621 | 30,356 | 31,670 | 92.3%  |

### 4 各種サービスの提供、イベントの開催等

例年実施しているクルーザーヨットレースや水上オートバイのタイムトライアル、磐梯祭り協賛事業の湖上遊覧イベントや、横浜国際ボートショーへの出展などにより、イベント参加者や観光客数も年々増加している。

また、青少年を対象とした「猪苗代湖オープンヨットレース2008」を開催し、マリンスポーツの振興に寄与した。

### 5 経費の削減

指定管理者導入前より利用料金制により管理経費を賄うこととしていたため、県からの委託料支出は無い。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

「猪苗代湖オープンヨットレース2008」(20.8.30・31)の開催

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

平成20年度は、年間保管隻数が、対17年度比で96.7%と下回っており、月極保管隻数を含めた契約艇数でも255隻（17年度267隻）と下回っている。

また、利用料収入においても、対17年度比92.3%と下回っており、大きく落ち込んだ19年度からは若干上向いたものの厳しい状況が続いている。

各種サービスの提供やイベントの開催による新規顧客開拓を図っており、経営努力がみられるが、マリーナを取り巻く環境が厳しさを増していることから、顧客獲得のための一層の努力が必要と思われる。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

イベントの開催により19年度に比べ若干の利用料増加が見られたが、マリーナを取り巻く環境が厳しさを増していることから、顧客獲得のための一層の努力が必要と思われる。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                        |
|----------|-------|----|-------------------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 収支予算                                |
| 月例報告     | ×     |    |                                     |
| 四半期報告    |       | 4  | 年度・期中決算報告                           |
| 定期立入検査   | ×     |    |                                     |
| 不定期立入検査  |       | 2  | 施設の現状について調査、揚降業務委託の必要性について聞き取り調査    |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務実施状況、利用料金、目標達成状況、業務経費             |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                                     |
| その他      |       | 1  | 指定管理者申請に当たり、臨時取締役会等で21年度からの経営改善策を協議 |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

世界的な大不況下にあって今後厳しい経営が続くことが予想される中、委託料の削減など徹底したコスト削減に取組み、安定的な経営が行える環境を整える。

また、新規顧客の獲得のため、広告宣伝やイベント開催等により、マリンスポーツとしての猪苗代湖の魅力の周知に努めるとともに、小型船舶免許教室の会場としての機能を強化し、免許手数料の確保と併せて、免許取得者をマリーナの顧客として取り込む仕組み作りを行う。

|      |  |        |            |
|------|--|--------|------------|
| 施設名  | プレジャーボート用指定泊地・指定施設<br>(江名港、久之浜港、豊間漁港、勿来漁港、四倉漁港)    | 指定管理者名 | いわき市漁業協同組合 |
| 指定期間 | H18.4.1~H21.3.31(四倉漁港以外)<br>H19.4.1~H21.3.31(四倉漁港) | 担当課名   | 土木部港湾課     |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

#### 1 施設の概要

|                           |        |
|---------------------------|--------|
| (1) 江名港プレジャーボート用指定泊地      | 2,000㎡ |
| (2) 久之浜港プレジャーボート用指定泊地     | 1,780㎡ |
| (3) 豊間漁港プレジャーボート用指定施設(泊地) | 600㎡   |
| (4) 勿来漁港プレジャーボート用指定施設(泊地) | 900㎡   |
| (5) 四倉漁港プレジャーボート用指定施設(泊地) | 800㎡   |

#### 2 管理業務の実施状況

福島県港湾管理条例、福島県漁港管理条例、基本協定書及びプレジャーボート用指定泊地・指定施設指定管理者管理運営仕様書に基づき、管理業務を適正に実施した。

#### 3 利用状況(使用料)及び県委託料

|      | 保管隻数<br>(単位:隻) |      |      |      |
|------|----------------|------|------|------|
|      | 17年度           | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
| 江名港  | 29             | 29   | 22   | 24   |
| 久之浜港 | 31             | 30   | 29   | 30   |
| 豊間漁港 | 5              | 7    | 12   | 10   |
| 勿来漁港 | 13             | 13   | 13   | 13   |
| 四倉漁港 | -              | 16   | 19   | 19   |

|      | 使用料(県収入)<br>(隻数×月数×単価1×1.05)<br>(単位:円) |         |         |         |
|------|--|---------|---------|---------|
|      | 17年度                                   | 18年度    | 19年度    | 20年度    |
| 江名港  | 931,140                                | 920,745 | 700,560 | 762,300 |
| 久之浜港 | 994,140                                | 989,100 | 928,620 | 958,860 |
| 豊間漁港 | 151,200                                | 207,900 | 343,980 | 313,740 |
| 勿来漁港 | 461,160                                | 461,160 | 487,620 | 472,500 |
| 四倉漁港 | -                                      | 271,845 | 573,300 | 583,380 |

単価1:艇長7m未満・・・2,400円 7m以上14m未満・・・3,300円 14m以上・・・5,600円  
四倉漁港は18年6月に指定施設の指定を行った。その後19年12月に指定管理者指定までの間は県が直接管理していた。

なお、四倉漁港の19年度使用料の内、指定管理者指定後の分は上段の額(内数)

|      | 県委託料<br>(隻数×月数×単価2×1.05)<br>(単位:円) |         |         |         |
|------|------------------------------------|---------|---------|---------|
|      | 17年度                               | 18年度    | 19年度    | 20年度    |
| 江名港  | 728,700                            | 724,500 | 546,000 | 588,000 |
| 久之浜港 | 781,200                            | 768,600 | 726,600 | 751,800 |
| 豊間漁港 | 126,000                            | 163,800 | 277,200 | 252,000 |
| 勿来漁港 | 327,600                            | 327,600 | 327,600 | 327,600 |
| 四倉漁港 | -                                  | -       | 159,600 | 476,700 |

単価2:動力船・・・2,000円 無動力船・・・1,000円

4 管理運営目標の達成状況

| 管理運営項目                | 達成状況 |
|-----------------------|------|
| プレジャーボートの安全な係留を行うこと   | 達成   |
| 管理物件における放置艇を防止すること    | 達成   |
| 管理物件及びその周辺の環境美化に努めること | 達成   |

5 経費の縮減

- ・単価契約のため、保管隻数に応じて委託料及び使用料収入が増減する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

無し

2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

1 施設の維持管理

週1回以上巡視を行い、施設の点検、環境美化に努めている。

2 施設の運営

適正な停泊、停留及び係留のため、安全に利用できるよう指導し、災害等の発生が予想される場合に事前に船舶の係留状況の確認を行い、また、安全確保のため漁業者との利用形態の調整や関係機関との連絡調整を随時行っており、いずれの業務も適正に執行されていると判断する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

無し

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 業務内容、業務経費          |
| 月例報告     |       | 12 | 管理艇数、巡回記録          |
| 四半期報告    | ×     |    |                    |
| 定期立入検査   | ×     |    |                    |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                    |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務実施状況、目標達成状況、業務経費 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                    |
| その他      |       |    |                    |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

引き続き、プレジャーボートの安全な係留、放置艇防止、環境美化のための取組を行う。

なお、放置艇を発見した場合については、速やかに使用許可の手続を行うとともに、港湾及び漁港の利用上支障があると認められるときは、県に連絡し県の指示により撤去等の指導を行う。



|      |                     |        |           |
|------|---------------------|--------|-----------|
| 施設名  | プレジャーボート用指定泊地（小名浜港） | 指定管理者名 | 小名浜漁業協同組合 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31    | 担当課名   | 土木部港湾課    |

### 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

#### 1 施設の概要

- (1) 小名浜港プレジャーボート用指定泊地A 1,000㎡  
(2) 小名浜港プレジャーボート用指定泊地B 299㎡  
(3) 小名浜港プレジャーボート用指定泊地C 1,600㎡  
(計 2,899㎡)

#### 2 管理業務の実施状況

福島県港湾管理条例、基本協定書及びプレジャーボート用指定泊地指定管理者管理運営仕様書に基づき、管理業務を適正に実施した。

#### 3 利用状況（使用料）及び県委託料

|      | 保管隻数<br>(単位：隻) |      |      |      |
|------|----------------|------|------|------|
|      | 17年度           | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
| 小名浜港 | 39             | 39   | 37   | 37   |

|      | 使用料（県収入）<br>(隻数×月数×単価1×1.05)<br>(単位：円) |           |           |           |
|------|--|-----------|-----------|-----------|
|      | 17年度                                   | 18年度      | 19年度      | 20年度      |
| 小名浜港 | 1,438,920                              | 1,441,440 | 1,456,560 | 1,291,500 |

単価1：艇長7m未満・・・2,400円 7m以上14m未満・・・3,300円 14m以上・・・5,600円

|      | 県委託料<br>(隻数×月数×単価2×1.05)<br>(単位：円) |         |         |         |
|------|------------------------------------|---------|---------|---------|
|      | 17年度                               | 18年度    | 19年度    | 20年度    |
| 小名浜港 | 961,800                            | 957,600 | 953,400 | 932,400 |

単価2：動力船・・・2,000円 無動力船・・・1,000円

#### 4 管理運営目標の達成状況

| 管理運営項目                | 達成状況 |
|-----------------------|------|
| プレジャーボートの安全な係留を行うこと   | 達成   |
| 管理物件における放置艇を防止すること    | 達成   |
| 管理物件及びその周辺の環境美化に努めること | 達成   |

#### 5 経費の縮減

- ・単価契約のため、保管隻数に応じて委託料及び使用料収入が増減する。

#### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

無し

### 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

#### 1 施設の維持管理

週1回以上巡視を行い、施設の点検、環境美化に努めている。

## 2 施設の運営

適正な停泊、停留及び係留のため、安全に利用できるよう指導し、災害等の発生が予想される場合に事前に船舶の係留状況の確認を行い、また、安全確保のため漁業者との利用形態の調整や関係機関との連絡調整を随時行っており、いずれの業務も適正に執行されていると判断する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

無し

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 業務内容、業務経費          |
| 月例報告     |       | 12 | 管理艇数、巡回記録          |
| 四半期報告    | ×     |    |                    |
| 定期立入検査   | ×     |    |                    |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                    |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務実施状況、目標達成状況、業務経費 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                    |
| その他      |       |    |                    |

【主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度の実施（指定管理者）

引き続き、プレジャーボートの安全な係留、放置艇防止、環境美化のための取組を行う。  
なお、放置艇を発見した場合については、速やかに使用許可の手続を行うとともに、港湾及び漁港の利用上支障があると認められるときは、県に連絡し県の指示により撤去等の指導を行う。

|      |                     |        |           |
|------|---------------------|--------|-----------|
| 施設名  | プレジャーボート用指定泊地（中之作港） | 指定管理者名 | 中之作漁業協同組合 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31    | 担当課名   | 土木部港湾課    |

### 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

#### 1 施設の概要

- (1) 中之作港プレジャーボート用指定泊地 A 2,000㎡  
(2) 中之作港プレジャーボート用指定泊地 B 1,170㎡  
(3) 中之作港プレジャーボート用指定泊地 C 1,200㎡  
(4) 中之作港プレジャーボート用指定泊地 D 1,000㎡  
(計 5,370㎡)

#### 2 管理業務の実施状況

福島県港湾管理条例、基本協定書及びプレジャーボート用指定泊地指定管理者管理運営仕様書に基づき、管理業務を適正に実施した。

#### 3 利用状況（使用料）及び県委託料

|      | 保管隻数   |      |      |      |
|------|--------|------|------|------|
|      | (単位：隻) |      |      |      |
|      | 17年度   | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
| 中之作港 | 30     | 31   | 29   | 30   |

|      | 使用料（県収入）<br>(隻数×月数×単価1×1.05) |           |           |           |
|------|------------------------------|-----------|-----------|-----------|
|      | (単位：円)                       |           |           |           |
|      | 17年度                         | 18年度      | 19年度      | 20年度      |
| 中之作港 | 1,054,620                    | 1,086,120 | 1,014,300 | 1,065,960 |

単価1：艇長7m未満・・・2,400円 7m以上14m未満・・・3,300円 14m以上・・・5,600円

|      | 県委託料<br>(隻数×月数×単価2×1.05) |         |         |         |
|------|--------------------------|---------|---------|---------|
|      | (単位：円)                   |         |         |         |
|      | 17年度                     | 18年度    | 19年度    | 20年度    |
| 中之作港 | 753,900                  | 772,800 | 722,400 | 756,000 |

単価2：動力船・・・2,000円 無動力船・・・1,000円

#### 4 管理運営目標の達成状況

| 管理運営項目                | 達成状況 |
|-----------------------|------|
| プレジャーボートの安全な係留を行うこと   | 達成   |
| 管理物件における放置艇を防止すること    | 達成   |
| 管理物件及びその周辺の環境美化に努めること | 達成   |

#### 5 経費の縮減

- ・単価契約のため、保管隻数に応じて委託料及び使用料収入が増減する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

無し

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

### 1 施設の維持管理

週1回以上巡視を行い、施設の点検、環境美化に努めている。

### 2 施設の運営

適正な停泊、停留及び係留のため、安全に利用できるよう指導し、災害等の発生が予想される場合に事前に船舶の係留状況の確認を行い、また、安全確保のため漁業者との利用形態の調整や関係機関との連絡調整を随時行っており、いずれの業務も適正に執行されていると判断する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

無し

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 業務内容、業務経費          |
| 月例報告     |       | 12 | 管理艇数、巡回記録          |
| 四半期報告    | ×     |    |                    |
| 定期立入検査   | ×     |    |                    |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                    |
| 事業報告書    |       | 1  | 業務実施状況、目標達成状況、業務経費 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |                    |
| その他      |       |    |                    |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

## 4 平成21年度の実績（指定管理者）

引き続き、プレジャーボートの安全な係留、放置艇防止、環境美化のための取組を行う。

なお、放置艇を発見した場合については、速やかに使用許可の手続を行うとともに、港湾及び漁港の利用上支障があると認められるときは、県に連絡し県の指示により撤去等の指導を行う。

|      |                                     |        |            |
|------|-------------------------------------|--------|------------|
| 施設名  | プレジャーボート用指定施設<br>(釣師浜漁港、真野川漁港、請戸漁港) | 指定管理者名 | 相馬双葉漁業協同組合 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31                    | 担当課名   | 土木部港湾課     |

### 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

#### 1 施設の概要

|                           |       |                     |
|---------------------------|-------|---------------------|
| (1) 釣師浜漁港プレジャーボート用指定施設    | 釣師泊地A | 130.5m <sup>2</sup> |
| (2) 釣師浜漁港プレジャーボート用指定施設    | 釣師泊地B | 279.5m <sup>2</sup> |
| (3) 真野川漁港プレジャーボート用指定施設    | 烏崎泊地A | 1,980m <sup>2</sup> |
| (4) 真野川漁港プレジャーボート用指定施設    | 烏崎泊地B | 1,250m <sup>2</sup> |
| (5) 真野川漁港プレジャーボート用指定施設    | 烏崎泊地C | 2,025m <sup>2</sup> |
| (6) 請戸漁港プレジャーボート用指定施設(泊地) |       | 840m <sup>2</sup>   |

#### 2 管理業務の実施状況

福島県漁港管理条例、基本協定書及びプレジャーボート用指定施設指定管理者管理運営仕様書に基づき、管理業務を適正に実施した。

#### 3 利用状況(使用料)及び県委託料

|       | 保管隻数   |      |      |      |
|-------|--------|------|------|------|
|       | (単位:隻) |      |      |      |
|       | 17年度   | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
| 釣師浜漁港 | 6      | 5    | 5    | 5    |
| 真野川漁港 | 63     | 61   | 67   | 70   |
| 請戸漁港  | 15     | 14   | 15   | 15   |

|       | 使用料(県収入)         |           |           |           |
|-------|------------------|-----------|-----------|-----------|
|       | (隻数×月数×単価1×1.05) |           |           |           |
|       | (単位:円)           |           |           |           |
|       | 17年度             | 18年度      | 19年度      | 20年度      |
| 釣師浜漁港 | 192,780          | 162,540   | 162,540   | 162,540   |
| 真野川漁港 | 2,045,610        | 2,016,315 | 2,110,500 | 2,237,130 |
| 請戸漁港  | 532,980          | 491,400   | 522,585   | 559,755   |

単価1:艇長7m未満・・2,400円 7m以上14m未満・・3,300円 14m以上・・5,600円

|       | 県委託料             |           |           |           |
|-------|------------------|-----------|-----------|-----------|
|       | (隻数×月数×単価2×1.05) |           |           |           |
|       | (単位:円)           |           |           |           |
|       | 17年度             | 18年度      | 19年度      | 20年度      |
| 釣師浜漁港 | 151,200          | 126,000   | 126,000   | 126,000   |
| 真野川漁港 | 1,577,100        | 1,533,000 | 1,617,000 | 1,722,000 |
| 請戸漁港  | 375,900          | 352,800   | 367,500   | 378,000   |

単価2:動力船・・2,000円 無動力船・・1,000円

#### 4 管理運営目標の達成状況

| 管理運営項目                | 達成状況 |
|-----------------------|------|
| プレジャーボートの安全な係留を行うこと   | 達成   |
| 管理物件における放置艇を防止すること    | 達成   |
| 管理物件及びその周辺の環境美化に努めること | 達成   |

#### 5 経費の縮減

・単価契約のため、保管隻数に応じて委託料及び使用料収入が増減する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

無し

2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

1 施設の維持管理

週1回以上巡視を行い、施設の点検、環境美化に努めている。

2 施設の運営

適正な停泊、停留及び係留のため、安全に利用できるよう指導し、災害等の発生が予想される場合に事前に船舶の係留状況の確認を行い、また、安全確保のため漁業者との利用形態の調整や関係機関との連絡調整を随時行っており、いずれの業務も適正に執行されていると判断する。

【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

無し

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数  | 報告要求項目・検査目的等       |
|----------|-------|-----|--------------------|
| 年度事業計画   |       | 1   | 業務内容、業務経費          |
| 月例報告     |       | 1 2 | 巡回記録、放置艇の状況、異常の有無  |
| 四半期報告    | ×     |     |                    |
| 定期立入検査   | ×     |     |                    |
| 不定期立入検査  | ×     |     |                    |
| 事業報告書    |       | 1   | 業務実施状況、目標達成状況、業務経費 |
| 外部委員等評価  | ×     |     |                    |
| その他      |       |     |                    |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特になし

4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

引き続き、プレジャーボートの安全な係留、放置艇防止、環境美化のための取組を行う。

なお、放置艇を発見した場合については、速やかに使用許可の手続を行うとともに、港湾及び漁港の利用上支障があると認められるときは、県に連絡し県の指示により撤去等の指導を行う。

|      |                  |        |                 |
|------|------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | あづま総合運動公園        | 指定管理者名 | (財)福島県都市公園・緑化協会 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 土木部まちづくり推進課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 施設の概要(平成21年4月1日現在)

- |             |                                |             |  |
|-------------|--------------------------------|-------------|--|
| (1) 面積      | 88.2 ha (クライミングウォール及び民家園を除く面積) |             |  |
| (2) 管理する施設  |                                |             |  |
| 有料施設        |                                |             |  |
| ・県営あづま総合体育館 | ・県営あづま陸上競技場                    | ・県営あづま球場    |  |
| ・庭球場        | ・サイクルスポーツ広場                    |             |  |
| その他の施設      |                                |             |  |
| ・補助陸上競技場    | ・軟式野球場                         | ・多目的運動広場    |  |
| ・第二多目的運動広場  | ・ミニ多目的広場                       | ・スポーツイベント広場 |  |
| ・せせらぎ・桜の広場  | ・ピクニック広場                       | ・木陰広場       |  |
| ・巨石広場       | ・トリムの森                         | ・駐車場 14カ所   |  |
| ・屋外トイレ 11棟  |                                |             |  |

### 2 公園施設利用者数の増加に関する事項

従来からの各種スポーツ・レクリエーション教室や緑化の普及のための各種教室に加え、新たにあづまカップパークゴルフ大会などを開催し、ニュースポーツの振興に寄与するとともに、「サービスデー(個人利用無料開放)」、「サマータイム(夏季の利用時間延長)」を継続して実施するなど誘客に努めた。また、公園広報誌を公募により「あづま～れ」と命名し、併せて発行回数増と各戸配布方式を導入し新鮮情報の提供に努めた。

その結果、平成20年度は1,599,577人の利用があった。

- ・平成20年度利用者数目標 1,350,000人(A)
- ・平成20年度利用者数実績 1,599,577人(B)
- ・平成19年度利用者数実績 1,444,831人(C)
- ・目標達成率(B/A) 118.5%
- ・対前年度比(B/C) 110.7%

#### (1) スポーツ教室の開催

小学生初心者水泳教室など7種目14教室 参加者数 延べ 2,923人

#### (2) スポーツイベントの開催

第24回全国小学校陸上競技交流大会福島県予選会など16大会 参加者数 延べ 13,660人

#### (3) あづまイベントの開催

春の感謝デー(4月29日〔昭和の日〕)

県民の日記念イベント(8月17日)

秋の感謝祭(10月13日〔体育の日〕)

冬の子どもフェスタ(12月21日)

魅惑のクリスマスローズ展(2月27日～3月1日) 参加者数 延べ 86,458人

#### (4) サービスデーの実施

月1回(土、日又は祝日を指定)個人利用に対する無料開放日を設け、サービスを向上させるとともに利用者増を図った。 有料施設の個人利用者数 70,134人

#### (5) サマータイムの実施

6月1日から8月15日まで、屋外施設(庭球場、陸上競技場、サイクルスポーツ広場など)の利用時間を午後7時まで延長し、利用者の利便性を向上させるとともに利用者増に努めた。 午後5時～午後7時の利用者 22,561人

### 3 管理経費の節減に関する事項

#### (1) 人件費の削減

平成20年度までの指定管理者期間中は、昇給停止の措置を講じ、人件費の抑制に努めた。また、臨時職員のスキルアップを図り雇用数を減らして賃金の削減を図った。

#### (2) 植栽の管理経費の節減

植栽の維持管理業務の直営化を進め、外部委託費の削減を図った。

(3) 事務経費・物件費の節減

県内旅行の日当の廃止、交通費の実費支給など旅費規程を改正し（平成18年4月）、旅費支給額の節減を図った。また、省エネの徹底を図り電気使用量、燃料使用量の削減を行った。さらに、コピー機の3公園一括発注を行い賃借料を引き下げた。

なお、指定管理者となり、新たに法人税等の支出が生じている。

(単位：千円)

| 項目    | 17年度経費A | 20年度経費B | 差額B-A  | 対17年度比 |
|-------|---------|---------|--------|--------|
| 人件費   | 204,260 | 198,654 | 5,606  | 97.3%  |
| 一般管理費 | 68,714  | 92,453  | 23,739 | 134.5% |
| 事業費   | 407,540 | 387,667 | 19,873 | 95.1%  |
| 計     | 680,514 | 678,774 | 1,740  | 99.7%  |

4 スポーツ・レクリエーション教室及び緑化の普及のための各種教室の開催による県民サービスの向上に関する事項

(1) スポーツ・レクリエーション教室の開催

卓越したスポーツ能力を有する職員及び外部講師によるスポーツ教室を開催し、スポーツの普及振興に努めた。

幼児から小学生を対象としたスポーツ教室

親と幼児の運動教室など10教室 参加者数 延べ 2,008人

小学生から大人までを対象としたスポーツ教室

ラグビー教室A 参加者数 延べ 370人

高校生以上の大人を対象としたスポーツ教室

ラグビー教室B 参加者数 延べ 330人

大人を対象としたスポーツ教室

ボクシングエクササイズ教室 参加者数 延べ 215人

(2) 緑化の普及のための各種教室の開催

美しい都市景観の形成を目指し、まちを花と緑でいっぱいにするために「緑化推進事業」としての園芸教室を行った。

無料開放日「春の感謝デー」に合わせた園芸教室

- ・園芸教室 参加者50人
- ・花苗の展示即売会
- ・花苗等の無料配布

季節に合わせた園芸教室

- ・前期 5月～6月 参加者 34人
- ・後期 10月～11月 参加者 30人

樹木の手入れを実践で学ぶ緑の市民カレッジ

- ・マツの剪定教室（春のみどり摘み） 5月 参加者 17人
- ・夏の花木の剪定教室 8月 参加者 16人
- ・マツの剪定教室（秋のもみあげ） 10月 参加者 16人

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

1 新たなスポーツイベントの開催

あづまカップパークゴルフ大会を主催しニュースポーツの振興に寄与したほか、あづまU-15サッカーフェスティバルなどのサッカー大会を開催し小・中学生のサッカーの技術力向上に資するとともに、将来のアスリートたちに大会出場の機会を提供した。

2 公園広報誌「あづま～れ」による新鮮情報の提供

あづま総合運動公園広報誌を改編し、公募により「あづま～れ」と命名するとともに、発行回数増と回覧板方式から各戸配布方式に改めることにより新鮮情報の確実な提供に努めた。

3 公園での子育てを支援する「公園・子育て応援プロジェクト」の実施

県が実施する「子育て応援パスポート事業」と連携して、ファミタンカード提示者への利用優待制度の創設や「あづま絵本ぶんこ」の開設などを地域や福島市立図書館の協力により実施した。

4 公園の新たな発見をサポートする「あづま総合運動公園と荒川周辺 てくてくマップ」の発行

絵地図の専門家と職員との共同作業により完成した折りたたみ式マップによって、新たな公園の魅力を広くPRし「あづまファン」を獲得した。

5 NPO法人との協働事業実施

NPO法人あづまスポーツクラブと協働で「シニアスポーツ相談室運営事業」や「園芸福祉関連事業」を実施し、公園利用者の増を図った。



- 6 「月会員制」の通年実施  
好評の「月会員制」を通年で実施することにより、体育館トレーニング室及び室内プールの利用者増につなげた。
- 7 落雷及び熱中症対策による安全・安心の確保  
雷警報機の導入による落雷対策及び熱中症指標計の導入による熱中症対策に努め、利用者の安全・安心の確保に努めた。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

- 1 公園施設利用者数の増加に関する事項  
・指定管理者自らが主催する各種イベントやサービス向上策及び広報誌の発行や新聞社等への情報提供によるPR活動によって利用者は増加しており、その取り組みは評価できる。
- 2 管理経費の節減に関する事項  
・人件費については、臨時職員のスキルアップによる雇用数の減少を図るなど、その取り組みは評価できる。  
・植栽管理の直営化推進による外部委託費の削減、省エネ対策による電気代削減等の取り組みは評価できる。
- 3 スポーツ・レクリエーション教室及び緑化の普及のための各種教室の開催による県民サービスの向上に関する事項  
・パークゴルフ大会、あづまU-15サッカーフェスティバルなどの平成20年度新規事業にも代表されるように、幅広い年齢層のスポーツ活動等に対応した各種大会・教室を多数開催したことは、県民の健康増進や交流の促進等に寄与するとともに公園利用者の増加につながったものとして評価できる。

### 【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

- ・各種大会や教室の新設、広報誌の改編・発行回数が増、子育て支援策及び安全対策等は、いずれも利用者に対するサービス向上や利用促進につながるものとして評価できる。

## 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等          |
|----------|-------|----|-----------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理運営目標及び業務計画書         |
| 月例報告     |       | 12 | 管理業務の実施状況及び公園施設等の利用状況 |
| 四半期報告    | -     | -  |                       |
| 定期立入検査   |       | 1  | 業務報告書に基づく立入確認検査       |
| 不定期立入検査  |       | 6  | 管理運営状況及び修繕実施状況等の確認    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支状況等の確認       |
| 外部委員等評価  | -     | -  |                       |
| その他      |       |    |                       |

### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

- ・特になし。

## 4 平成21年度 of 取組み（指定管理者）

これまでの取組みを基本に据え、公園の豊かな資源と県下一の施設を有効活用し利用者のニーズに応えながら積極的に新たな事業にも取り組み、誰もが四季を通じて快適に利用できる「安全・安心な公園」の実現を目指す。

### 1 公園施設利用者の増加に関する事項

#### (1) 新たに取組む主な事項

- ・「ふくしま小学生スポーツフェスタ」を開催し、各種のスポーツ競技を超えたふれあいや交流を進め、次世代を担う子どもたちを応援する。
- ・年間を通じた初の教室として小学5年生から中学生の女子を対象とする「あづまガールズサッカースクール」を開催し、女子サッカーの振興に寄与する。
- ・「中高齢者筋力向上教室」等を開催し、平日の利用促進を図る。
- ・スポーツターフ用芝生の損傷箇所補修のため、「芝生のストックヤード」を整備し、管理水準と利用者サービスの向上を図る。

(2) 重点的に実施する事項

公平公正な利用の提供を心がけながら、公園利用のリピーターはもとより新たな層の利用者を獲得するため、報道機関やニュースポーツ関係団体等イベント主催団体に各種イベントの開催を働きかけるほか、ヤマユリやイチョウなどのライトアップ、指定管理各公園と合同で実施する「公園フォトコンテスト」を開催するなど利用者の増に努める。

また、ホームページや公園広報誌「あづま〜れ」等を活用した新鮮情報の提供に努める。

2 管理経費の節減に関する事項

一般事務費の節減はもちろんのこと、事業経費についても利用者へのサービス水準を維持しつつ積極的な節減に努める。

(1) 再委託率の低減

植栽については協会所有の管理機械を有効に活用し、可能な限り直営による維持管理を行い再委託率の縮小に努める。

また、協会所有の管理機械の一元管理化を進め、他公園との一体的、効率的な管理運営に当たっていく。

(2) 発生材の再利用

園内で発生する剪定枝、古損木などを産廃処理せずチップ化することにより、経費節減と資源の再利用を促進する。

3 スポーツ・レクリエーション教室及び緑化の普及のための各種教室の開催による県民サービスの向上に関する事項

(1) 職員や外部講師によるスポーツ教室を充実するとともに様々なイベントを開催し、各種スポーツの普及振興に努める。

(2) これまで開催してきた「園芸教室」と「緑の市民カレッジ」を改編し、新たに、福島の四季を身近に感じることができる「暮らしの中の花とみどりの総合講座」を開催するほか、子供を対象とした教室「公園の達人」や人気の「落ち葉プール」などを継続実施する。

|      |                  |        |                 |
|------|------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | 福島空港公園           | 指定管理者名 | (財)福島県都市公園・緑化協会 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 土木部まちづくり推進課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の概要（平成21年4月1日現在）

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| 全面積 52.1 ha                                       |                                |
| (1) 緑のスポーツエリア 面積 263,900㎡( 21世紀建設館 トイレ3棟 あづまや1棟 ) |                                |
| (イ) 21世紀建設館駐車場 34,990㎡                            | (ロ) テニスコート(8面) 13,550㎡         |
| (ハ) 多目的運動広場・フットコート 44,980㎡                        | (ニ) 園路・進入路 125,674㎡            |
| (ホ) 既存林 44,706㎡                                   |                                |
| (2) 地球科学エリア 面積 63,000㎡( あづまや2棟 トイレ2棟 炊事場1棟 釜戸4基 ) |                                |
| (イ) お花見広場 19,707㎡                                 | (ロ) 野外活動広場 4,135㎡              |
| (ハ) 2号防災調節地 9,624㎡                                | (ニ) 園路・進入路 17,217㎡             |
| (ホ) 既存林 12,317㎡                                   |                                |
| (3) エアフロントエリア 面積 194,000㎡                         |                                |
| ( あづまや4棟 展望台2基 トイレ3棟 休憩所1棟 )                      |                                |
| (イ) 福島広場 7,000㎡                                   | (ロ) 岩園 5,000㎡ (ハ) 入り口広場 2,500㎡ |
| (ニ) 展望広場 27,000㎡                                  | (ホ) 管理棟 300㎡ (ハ) 郷土の森 21,000㎡  |
| (ト) 花木園 49,000㎡                                   | (チ) 駐車場 31,000㎡ ほか             |

### 2 樹木、芝生等植栽の維持管理に関する事項

- (1) 日常の植栽管理は直営により実施し、特殊な技術力を要する樹木管理や特殊な管理機械を必要とするものは、専門の委託業者により実施し適正な管理を行った。
- (2) 剪定枝、枯損木のチップ化を図ることにより、園内の植栽箇所に散布しマルチングとして利用した。
- (3) サルビア、パンジー、マリーゴールドなどの公園で使用する花苗はすべて園内で育て、園内各花壇に季節毎の草花の植栽を行った。
- (4) 空港公園ボランティアの組織化を図り、臨時業務員とともに園地管理にあたった。

### 3 建物、設備等の定期点検、日常点検に関する事項

- (1) 専門的な資格を必要とする法定点検については、専門業者に再委託し、通常の日常点検については直営で実施した。

### 4 施設の利用、活用に関する事項

- (1) 施設利用者数は469,838人で管理運営目標の320,000人に対し46.8%の増、前年度より95,727人の増加(25.6%増)となった。
- (2) 緑のスポーツエリアの芝を良好な状態に保ち、春先の供用時期を例年より早めてゴールデンウィークとし、また秋季の供用も1ヶ月延長し11月末までとした。温暖な気候もあって多くの利用があった。
- (3) フットサル、サッカー、テニス等のスポーツイベント大会の開催、春秋の園芸教室、子供たちを集めた「みどりの楽校」「森の達人になろう」のイベントや、落葉プールなどを開催し利用促進を図った。
- (4) 毎月1回のテニスコートの無料開放を実施し、多くの個人利用者があった。
- (5) 春秋の「空の日」などの催しに積極的に参加し、多くの参加者があった。

### 5 経費の節減に関する事項

- (1) 植栽管理にあたっては直営及び再委託で行っているが、再委託業務を極力減らして直営業務により維持管理を行い経費の節減を図った。
- (2) 剪定枝、風倒木、枯損木、落葉などは資源の再利用化を第一とし、産廃として処理せずにチップ化してマルチング材とし、また、堆肥化して園内で再利用し、あわせて経費の節減を図った。

(単位：千円)

| 項目    | 17年度経費A | 20年度経費B | 差額B - A | 対17年度比 |
|-------|---------|---------|---------|--------|
| 人件費   | 42,753  | 49,172  | 6,419   | 115.0% |
| 一般管理費 | 6,665   | 14,876  | 8,211   | 223.2% |
| 事業費   | 70,269  | 50,290  | 19,979  | 71.6%  |
| 計     | 119,687 | 114,338 | 5,349   | 95.5%  |

【平成20年度に新たに取組んだ項目】

1 「公園で夢体験」の実施

公園の新たな多目的な利活用を図り、利用促進と親しまれる公園づくりを目的、「YOSAKOIin 空港公園」「公園でお茶会」「季節行事のアレンジフラワーづくり」「森の達人になろう」「空港公園そば道場」「公園の植物で草木染」「公園の葉っぱでカラーセラピー」「菜の花収穫祭」「正月を遊ぼう」「竹とんぼを飛ばそう」「沖縄県民との交流会」の11教室を23回実施し15,756名の参加があった。

2 「みどりの楽校」の実施

地域の小中学生と保護者に公園の緑を通して緑の大切さや自然とふれあう楽しさなどを学んでもらうために、森の保育、森に捨てられたゴミ拾い、原木ヘナメコの植菌と収穫等の内容で「みどりの楽校」を秋と春の2回実施し、91名の参加があった。

3 「空のみちウォーク」の実施

公園のPRと新たな利活用の推進、地域との交流を図るため「感じてください、空のいろ!!」をテーマに、福島県の空の玄関周辺に広がる福島空港公園の自然豊かな空に近い道を、専門家から解説を受けながら、空のいろを感じる約5.0kmのコースで実施し、県内外から400名の参加があった。

4 「手作り体験学習」の実施

公園施設のPRと利用推進、さらに公園での思い出作りをサポートするため「とんぼ玉づくり」「日時計づくり」などの6教室7回を実施し、152名の参加があった。

5 「福島空港公園ふれあい広場、利用推進会議」の実施

福島空港公園を県民に広くPRし公園利用を促進するとともに、地域との連携を図り地域づくりに寄与するために行う事業、イベントを共催できる個人、団体、企業等が集まり情報交換等ができる場を設けた。さらに、公園利用推進会議を設け意見交換を実施した。

28団体 40名参加

2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

1 樹木、芝生等植栽の維持管理に関する事項

・提出された業務報告書等に基づき確認した結果、植栽管理等は適切に実施されている。  
また、園内の植栽に使用する花々を全て園内で生育させ季節感の演出に努めたことは、経費節減の面からも評価できる。

2 建物、設備等の定期点検、日常点検に関する事項

・提出された業務報告書等により確認した結果、適切に実施されている。

3 施設の利用、活用に関する事項

・指定管理者自らの企画運営等により、平成20年度は大幅に施設利用者が増加したことは評価できる。

4 経費の節減に関する事項

・植栽管理について外部委託から直営業務に切り替えを進めており、再委託率低下により経費節減を図っていることは評価できる。

【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

・イベントや教室を多数新設し、施設の利活用促進と積極的なPR活動を行った結果、公園利用者が対前年度25.6%の増加となったことは高く評価できる。

### 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等          |
|----------|-------|----|-----------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理運営目標及び業務計画書         |
| 月例報告     |       | 12 | 管理業務の実施状況及び公園施設等の利用状況 |
| 四半期報告    | -     | -  |                       |
| 定期立入検査   |       | 1  | 業務報告書に基づく立入確認検査       |
| 不定期立入検査  |       | 6  | 管理運営状況及び修繕実施状況等の確認    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支状況等の確認       |
| 外部委員等評価  | -     | -  |                       |
| その他      |       |    |                       |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

・特になし。

### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

#### 1 植栽、施設、設備等の維持管理に関する事項

- (1) 刈払い機、チェーンソーなどの技能講習を促進し、協会所有の緑地管理機械を十分に活用して機械化を図り、直営作業を多くし再委託率を低減し管理経費の縮減を図るとともに、効率的な管理運営に努めていく。
- (2) 剪定枝、枯損木、風倒木、落葉など園内発生材を再利用することにより環境への負荷の軽減を図り、あわせてコストの縮減を図る。
- (3) 施設の老朽化が年々進んでいることから、計画的な修繕、施設の適切な更新時期の検討等、効率的な維持管理が図れるよう修繕計画の作成と見直しを進める。

#### 2 施設の利用、活用に関する事項

- (1) 空港主催の各種行事への参加、グラウンドゴルフ、ターゲット・バードゴルフ、テニスなどの大会を主催あるいは競技団体と共催しその普及振興に努め、ひいては利用者の増を図っていく。
- (2) グラウンドゴルフ団体など中高年の誘致に努めるとともに、テニスの個人利用者ポイントサービスを実施し、平日の利用促進を図る
- (3) ホームページによる施設の空き情報の提供、報道機関への情報提供、地元市町村の広報誌へのイベント・教室の掲載依頼などPRに努めていく。
- (4) あづま総合運動公園、逢瀬公園と合同の「公園フォトコンテスト」を開催し、各公園の四季折々の優れた景観を再発見する。優秀作品は各公園で展示するとともに、広報誌やホームページへ掲載しPRを行うことにより誘客を図る。
- (5) 空港公園の豊富な公園資源を活かすため、専門家の職員により、自然観察路の開設などを行い新たな公園の魅力をもPRする。また、「公園で農体験」「みどりのコンサート」などの地域連携のイベント・教室や「空のみちウォーク」の開催による公園の多目的な利用を図るとともに新たな利用者層の集客を図り、地域と一体となった公園管理・運営に取り組む。
- (6) 地域と連携を図り、地域社会への貢献のため地域団体と連携で売店を新設するとともに、「みどりの相談所」を新たに開設する。  
また、公園で開催の大会、イベント等に参加する人達の為に地域の宿泊施設と連携し、利用者の利便性を図るとともに地域経済に貢献する。

|      |                  |        |                 |
|------|------------------|--------|-----------------|
| 施設名  | 逢瀬公園             | 指定管理者名 | (財)福島県都市公園・緑化協会 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 土木部まちづくり推進課     |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の概要（平成21年4月1日現在）

全面積 17.3 ha

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| (1) 中央広場 10,700㎡（展望台1基、カスケード1基 あづまや1棟） |                         |
| (2) 桜の広場 15,400㎡（あづまや2棟 トイレ1棟）         |                         |
| (3) わんぱく広場 7,700㎡（トイレ1棟 あづまや4棟）        |                         |
| (4) 入口広場 3,200㎡                        | (5) 花暦園 17,100㎡（あづまや1棟） |
| (6) 駐車場 1,700㎡（トイレ1棟）                  | (7) 幹線園路・園路 11,100㎡     |
| (8) 既存林 106,100㎡                       |                         |

### 2 樹木、芝生等植栽の維持管理に関する事項

- (1) 維持管理は、特殊技術を要するマツクイムシ被害木の処理業務を除き、すべて直営で適期に実施した。
- (2) 花壇に植栽する草花や無料で配布する植物は播種や株分けで育苗したものを使用した。
- (3) 剪定枝や枯れ枝はチップ化などすべて園内で処理し、草花のマルチングや歩道への敷込み、堆肥化などを図り再利用した。
- (4) おうせボランティアとの連携を深め、草花の植え替えや株分け、除草などの作業を、協働で行った。

### 3 建物、設備等の定期点検、日常点検に関する事項

- (1) 専門的な資格、技術を要する法定検査や点検は専門業者に再委託したが、日常点検については直営で定期的実施した。
- (2) 塗装や目地補修などの軽微な修繕は直営で実施した。

### 4 施設の利用、活用に関する事項

- (1) 施設の利用者は隣接する総合緑化センターとあわせ182,405人で管理運営目標の15万人に対し21.6%の増、前年度より19,162人増(11.7%増)となった。
- (2) 公園利用者の増を図るため、みどりに関する各種教室や体験教室、展示会、苗木無料配布、作品展示などを開催したところ16,341人の参加があった。
- (3) 地域との連携事業として地域の観光や地場産品のPRと販売を目的としたさくらまつりやみどりのフリーマーケットを開催したところ9,464人の来園者があった。
- (4) 近隣の高齢者福祉施設に定期的に園内の花情報やイベント開催案内を提供し、公園利用を促した。
- (5) 当公園を広くPRするため、官公庁をはじめドライブインや温泉などの観光施設での園内パンフレット配布に取り組んだ。

### 5 経費の節減に関する事項

- (1) 当協会で管理する公園で職員の相互活用を図るとともに、適正な職員の配置とその育成に努め、少数精鋭での管理を行った。
- (2) 職員給料の据え置きや賞与、旅費制度、被服貸与の見直しを行った。
- (3) こまめな消灯、温度管理に努め、電気や灯油の節減を図るとともに日々の検針を徹底し、省エネに取り組んだ。
- (4) 間伐等で発生した丸太は階段や杭木として利用し、購入費の削減を図った。
- (5) 園内に棲息する動・植物調査を行い、共生を図っていくための管理マニュアルを作成して、明確な管理区分により効率的な管理を行った。

(単位：千円)

| 項目    | 17年度経費 A | 20年度経費 B | 差額 B - A | 対 17 年度比 |
|-------|----------|----------|----------|----------|
| 人件費   | 17,700   | 13,755   | 3,945    | 77.7 %   |
| 一般管理費 | 99       | 2,240    | 2,141    | 2262.6 % |
| 事業費   | 9,275    | 5,866    | 3,409    | 63.2 %   |
| 計     | 27,074   | 21,861   | 5,213    | 80.7 %   |

【平成 20 年度に新たに取組んだ項目】

- 1 おうせパーク友の会の設置  
公園に親んでもらい、リピーターを増やすため、定期的な園内の情報発信や各種教室などの参加料を割引する特典を付した友の会を設置した。参加者数 38 名
- 2 オオムラサキの棲む森作り  
国蝶オオムラサキの数を増やすため、食餌植物であるエノキ 20 本を地域子供クラブと協働で植栽した。なお、植栽や観察ゲージの作成などを継続して行っていく。参加者数 22 名
- 3 きのご教室  
きのこの食・毒についての判定問合せが窓口が多いことから日本菌学会会員に講師を依頼し、見分け方や食べ方の教室を開催した。参加者数 120 名
- 4 ノルディックウォーキングクラブの設立  
ストックを持って歩くことで全身運動となり、健康づくりに役立つノルディックウォーキングのクラブを立ち上げ、定期的(月 2 回)に体験会・練習会を開催した。  
参加者数 165 名(年間)
- 5 寄植え作り  
地域との連携事業として、地元の公民館と協働で寄植え作りの教室を開催し、植物の手配や講師派遣を行った。参加者数 34 名
- 6 出逢いの公園作り  
本公園が所在する逢瀬にちなんだ「出逢いの公園作り」の一環として、この公園で人や自然との出逢いを願う「逢いの鐘」を設置した。

2 平成 20 年度の管理運営実績の評価(県)

- 1 樹木、芝生等植栽の維持管理に関する事項  
・提出された業務報告書等に基づき確認した結果、植栽管理等は適切に実施されている。  
また、特殊処理業務を除き、すべて直営で適正な時期に実施されていたことは、経費節減の面からも評価できる。
- 2 建物、設備等の定期点検、日常点検に関する事項  
・提出された業務報告書等により確認した結果、適切に実施されている。
- 3 施設の利用、活用に関する事項  
・指定管理者自ら各種イベント等の企画を行い利用促進を図った結果、施設利用者が増加したことは評価できる。
- 4 経費の節減に関する事項  
・省エネ対策、間伐材の施設への有効利用等により経費節減を図っていることは評価できる。

【平成 20 年に新たに取組んだ項目の評価】

- ・イベント等において地元商工会等と共催し、施設の利活用促進と積極的な PR 活動を行った結果、隣接する総合緑化センターと併せた公園利用者が対前年度 11.7 % の増加となったことは評価できる。

### 3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等          |
|----------|-------|----|-----------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理運営目標及び業務計画書         |
| 月例報告     |       | 12 | 管理業務の実施状況及び公園施設等の利用状況 |
| 四半期報告    | -     | -  |                       |
| 定期立入検査   |       | 1  | 業務報告書に基づく立入確認検査       |
| 不定期立入検査  |       | 6  | 管理運営状況及び修繕実施状況等の確認    |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支状況等の確認       |
| 外部委員等評価  | -     | -  |                       |
| その他      |       |    |                       |

#### 【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

・特になし。

### 4 平成21年度の取組み（指定管理者）

#### 1 植栽、施設、設備等の維持管理に関する事項

- (1) 施設の利用状況を考慮し、効率的な維持管理を行う。
- (2) 緑地、施設等の管理においては特殊なものを除きできる限り直営で行っていく。
- (3) 管理に使用する機械、器具等は当協会が管理する他公園と効率的な使用を図り、購入費の削減に努める。
- (4) 昨年度に引き続き、園内から発生する丸太や剪定枝、落ち葉などはリサイクルを行い、有効に活用していく。
- (5) 経年による施設の老朽も見られることから安全点検を徹底し、事故発生防止に努める。

#### 2 施設の利用、活用に関する事項

- (1) 前年度に引き続き、各種教室やイベントを開催し、公園利用者の増加を図る。
- (2) 設置目的であるみどりの啓発・普及をさらに高めるため、新たに県・市町村、造園業者などを対象とした「グリーンセミナー」「関連団体との連携による緑化の推進」「みどりの伝言板の設置」「みどりの図書館設置」「新たな緑化樹木・草花展示植栽」など新規事業を展開する。
- (3) 高齢者福祉施設に対して、園内の花情報やイベント情報を発信し、公園利用を促していたが新たに花壇作りなどみどりと触れ合える場所と資材・技術の提供を行い、公園に親しみを持ってもらおう。
- (4) 「出逢いの公園作り」の一環として、園内にある史跡や見所などを巡る「出逢いマップ作り」を公園利用者とともにを行い、公園のPRに努めていく。
- (5) NPO法人福島県もりの案内人の会や植物愛好会、ノルディックウォーキングクラブなど各種団体と協働で開催できる事業を拡大し、幅広い分野の教室やイベント開催を図っていく。
- (6) 自主事業検討会、逢瀬ボランティア、逢瀬パーク友の会と定期的な意見交換を行い、各種教室やイベント、管理運営へ対しての意見・要望を聞き入れ参考としていく。

#### 3 その他

オオタカやキンランなどの絶滅危惧種や希少生物が生息する自然豊かな本公園を後世に引き継ぐための植栽管理を行うとともに、この環境を使った観察会や体験会をとおしてみどりや自然の大切さを発信していく。



|      |   |        |                          |
|------|---|--------|--------------------------|
| 施設名  | 県営住宅等（県北地区、県中地区、会津地区、及びいわき地区）   | 指定管理者名 | 特定非営利活動法人<br>循環型社会推進センター |
| 指定期間 | 県北地区：H20.4.1～H23.3.31<br>県中地区：H20.4.1～H23.3.31<br>会津地区：H19.4.1～H22.3.31<br>いわき地区：H19.4.1～H22.3.31 | 担当課名   | 土木部建築住宅課                 |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 施設の概要（平成20年4月1日現在）

|      | 県北地区  | 県中地区  | 会津地区  | いわき地区 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 団地数  | 19    | 15    | 15    | 36    |
| 棟数   | 111   | 123   | 88    | 196   |
| 管理戸数 | 1,803 | 2,065 | 1,284 | 2,578 |

### 2 入退去業務に関する事項

#### 入居募集業務等実績

（単位：件）

|      | 県北地区 |     | 県中地区 |     | 会津地区 |     | いわき地区 |      |
|------|------|-----|------|-----|------|-----|-------|------|
|      | H20  | H19 | H20  | H19 | H20  | H19 | H20   | H19  |
| 募集戸数 | 437  | 401 | 275  | 112 | 133  | 114 | 108   | 132  |
| 応募者数 | 585  | 520 | 1368 | 975 | 1026 | 671 | 1960  | 1629 |
| 入居戸数 | 89   | 140 | 109  | 109 | 83   | 73  | 132   | 127  |
| 退去戸数 | 105  | 137 | 122  | 109 | 63   | 81  | 134   | 117  |

### 3 家賃等の納入指導に関する事項

#### (1) 家賃徴収率

（単位：%）

|        | 県北地区  |       | 県中地区 |  | 会津地区  |       | いわき地区 |  |
|--------|-------|-------|------|--|-------|-------|-------|--|
|        |       |       |      |  | 会津若松  | 喜多方   |       |  |
| 平成20年度 | 93.20 | 89.87 |      |  | 88.17 | 94.94 | 91.25 |  |
| 平成19年度 | 91.52 | 89.14 |      |  | 86.78 | 96.97 | 89.36 |  |
| 前年対比   | 1.68  | 0.73  |      |  | 1.39  | 2.03  | 1.89  |  |

#### (2) 県営住宅管理員活動実績

（単位：件、千円）

|        | 県北地区   |        | 県中地区   |        | 会津地区   |        | いわき地区  |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        | H20    | H19    | H20    | H19    | H20    | H19    | H20    | H19    |
| 訪問件数   | 3,205  | 3,901  | 4,727  | 3,711  | 1,460  | 1,207  | 4,831  | 4,741  |
| 納入相談件数 | 977    | 1,755  | 5,918  | 5,617  | 3,146  | 2,423  | 5,003  | 4,780  |
| 現金徴収額  | 27,850 | 33,010 | 39,556 | 39,560 | 11,952 | 11,093 | 47,535 | 46,524 |

### 4 県営住宅等の維持修繕及び保守管理に関する事項

#### (1) 維持修繕業務実績

（単位：件）

|          | 県北地区 |     | 県中地区 |     | 会津地区 |     | いわき地区 |     |
|----------|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-----|
|          | H20  | H19 | H20  | H19 | H20  | H19 | H20   | H19 |
| 緊急(経常)修繕 | 446  | 337 | 318  | 412 | 412  | 306 | 289   | 327 |
| 退去(空家)修繕 | 84   | 100 | 105  | 98  | 50   | 76  | 116   | 131 |
| 移転先修繕    | 0    | 44  | 0    | 3   | 0    | 0   | 11    | 0   |
| 合計       | 530  | 481 | 423  | 513 | 462  | 382 | 416   | 458 |

#### (2) 保守管理業務実績

エレベーター保守点検業務、夜間警備業務、防災設備保守点検業務、電気設備保守点検業務、浄化槽法定検査業務、給水施設保守管理業務、樹木養生業務、排水管清掃業務。

### 5 サービスの向上に関する事項

- (1) 募集住戸に関する位置、家賃、間取り等の情報及び入居申込の手續等について、ホームページでの情報発信を行った。

- (2) 入居者との日常的な情報交換を行い、自主管理意識の向上に努めてもらい、意識共有に向けた親密な関係を築くことでサービスの向上を図った。
- (3) 業務時間外の緊急修繕の対応が行えるように、土日、祝祭日の年末年始、お盆等の休日の当番の緊急修繕業者名を団地管理人に通知し連絡体制を整備した。
- (4) 経年劣化によるコンクリート、モルタルの落下による入居者への人的災害が事前に予想される場合や各団地に設置されている遊具等他の異常による子供への事故、また、団地内道路の側溝の老朽化による入居者のケガ等を未然に防止するために、管理員が集金に団地を訪問したときや技術職員が退去検査に行ったとき等を利用して、現状確認をし、未然の事故防止に努めた。

## 6 経費の節減に関する事項

### (1) 管理経費の縮減

#### ア 県北地区

平成19年度の実績と平成20年度の実績を比較すると、人件費等については、人件費の縮減により、2,562千円の縮減となった。また、維持修繕費等については、エレベーター保守管理の一括発注等により3,784千円の縮減となった。

なお、協定額と実績額を比較すると、人件費等で1,508千円の縮減となるが、維持修繕費等で35千円の経費の増加となった。

(単位：千円)

| 事 項     | 項 目     | 実績 A    | 協定額 B   | 実績 C    | 差額 C-A | 差額 C-B |
|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 人 件 費 等 | 1 人 件 費 | 24,449  | 20,482  | 18,898  | 5,551  | 1,584  |
|         | 2 直接事務費 | 5,644   | 9,497   | 9,474   | 3,830  | 23     |
|         | 3 一般管理費 | 8,534   | 7,594   | 7,693   | 841    | 99     |
|         | 小 計     | 38,627  | 37,573  | 36,065  | 2,562  | 1,508  |
| 維持修繕費等  | 4 維持修繕費 | 42,998  | 46,830  | 46,840  | 3,842  | 10     |
|         | 5 保守管理費 | 35,498  | 27,847  | 27,872  | 7,626  | 25     |
|         | 小 計     | 78,496  | 74,677  | 74,712  | 3,784  | 35     |
| 計       |         | 117,123 | 112,250 | 110,777 | 6,346  | 1,473  |

平成19年度と平成20年度の指定管理者は別団体です。

#### イ 県中地区

平成19年度の実績と平成20年度の実績を比較すると、人件費等については、人件費の増により、3,286千円の増となった。また、維持修繕費等については、エレベーター保守管理の一括発注等により4,473千円の縮減となった。

なお、協定額と実績額を比較すると、人件費等で818千円の縮減となるが、維持修繕費等で70千円の経費の増加となった。

(単位：千円)

| 事 項     | 項 目     | 実績 A    | 協定額 B   | 実績 C    | 差額 C-A | 差額 C-B |
|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 人 件 費 等 | 1 人件費   | 18,602  | 22,034  | 20,086  | 1,484  | 1,948  |
|         | 2 直接事務費 | 9,721   | 8,367   | 8,715   | 1,006  | 348    |
|         | 3 一般管理費 | 5,634   | 7,660   | 8,442   | 2,808  | 782    |
|         | 小 計     | 33,957  | 38,061  | 37,243  | 3,286  | 818    |
| 維持修繕費等  | 4 維持修繕費 | 43,496  | 40,150  | 40,201  | 3,295  | 51     |
|         | 5 保守管理費 | 25,828  | 24,631  | 24,650  | 1,178  | 19     |
|         | 小 計     | 69,324  | 64,781  | 64,851  | 4,473  | 70     |
| 計       |         | 103,281 | 102,842 | 102,094 | 1,187  | 748    |

#### ウ 会津地区

平成19年度の実績と平成20年度の実績を比較すると、人件費等については、人件費の縮減により、1,067千円の縮減となった。また、維持修繕費等については、維持修繕費の増により635千円の増加となった。

なお、協定額と実績額を比較すると、人件費等で2,224千円の縮減となるものの、維持修繕費等で70千円の経費の増加となった。

(単位：千円)

| 事 項     | 項 目     | 実績 A   | 協定額 B  | 実績 C   | 差額 C-A | 差額 C-B |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人 件 費 等 | 1 人 件 費 | 16,002 | 15,990 | 16,245 | 243    | 255    |
|         | 2 直接事務費 | 7,378  | 5,796  | 6,329  | 1,049  | 533    |
|         | 3 一般管理費 | 8,865  | 11,616 | 8,604  | 261    | 3,012  |
|         | 小 計     | 32,245 | 33,402 | 31,178 | 1,067  | 2,224  |
| 維持修繕費等  | 4 維持修繕費 | 27,052 | 27,798 | 27,868 | 816    | 70     |
|         | 5 保守管理費 | 19,011 | 18,830 | 18,830 | 181    | 0      |
|         | 小 計     | 46,063 | 46,628 | 46,698 | 635    | 70     |
| 計       |         | 78,308 | 80,030 | 77,876 | 432    | 2,154  |

## エ いわき地区

平成19年度の実績と平成20年度の実績を比較すると、人件費等については、人件費の増により、2,952千円の増加となった。また、維持修繕費等については、維持修繕費の増加により1,098千円の増加となった。

なお、協定額と実績額を比較すると、人件費等で2,479千円の縮減となるものの、維持修繕費等で1,142千円の経費の増加となった。

(単位：千円)

| 事 項     | 項 目     | 実績 A    | 協定額 B   | 実績 C    | 差額 C-A | 差額 C-B |
|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 人 件 費 等 | 1 人 件 費 | 20,812  | 23,990  | 24,503  | 3,691  | 513    |
|         | 2 直接事務費 | 12,089  | 12,279  | 10,818  | 1,271  | 1,461  |
|         | 3 一般管理費 | 12,071  | 14,134  | 12,603  | 532    | 1,531  |
|         | 小 計     | 44,972  | 50,403  | 47,924  | 2,952  | 2,479  |
| 維持修繕費等  | 4 維持修繕費 | 53,224  | 53,200  | 54,341  | 1,117  | 1,141  |
|         | 5 保守管理費 | 27,016  | 26,996  | 26,997  | 19     | 1      |
|         | 小 計     | 80,240  | 80,196  | 81,338  | 1,098  | 1,142  |
| 計       |         | 125,212 | 130,599 | 129,262 | 4,050  | 1,337  |

### 【平成20年に新たに取組んだ項目】

なし

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

### 1 入退去業務に関する事項

入居者の募集については、退去後の修繕から募集まで適切な期間で実施されているとともに、入居募集の告知から入居申込みの受付、入居抽選、入居説明会の開催、敷金等の納入確認等概ね適切に実施されている。

また、退去にあたっては、退去者に対する退去修繕の実施の説明、修繕後の確認検査及び退去に係る事務処理が適切に処理されている。

### 2 家賃等の納入指導に関する事項

家賃の徴収率は、毎年わずかながらも向上しており、指定管理者の日々の電話や文書による督促や臨戸訪問による納入指導の地道な活動の成果と考える。

### 3 県営住宅等の維持修繕及び保守管理に関する事項

維持修繕及び保守管理については、発注から施行、検査、支払いまで適切に処理されている。また、保守管理については、仕様書に基づいて適切に実施されている。

### 4 サービス向上に関する事項

入居希望者等が必要とする家賃や間取り等の募集住戸の情報や入居申込み方法等の情報を積極的に発信、修繕業者と連携しての入居者からの緊急的な修繕要望への対応、さらには、入居者等からの苦情への迅速な対応など、常に利用者の立場に立った行動は評価できる。

また、団地への臨戸訪問や退去検査を利用して、経年劣化によるコンクリート等の落下防止や修繕を要する遊具の確認など、入居者の事故の未然防止に努めた点は評価できる。

なお、団地管理人に対する管理状況の満足度アンケート調査(平成21年2月6日～27日 建築住宅課)を実施したところ、次のとおりとなった。

(単位：%)

|                    | 県北地区           | 県中地区           | 会津地区           | いわき地区          |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 満足<br>(大変満足及びやや満足) | 26.7<br>(34.4) | 25.7<br>(18.7) | 39.2<br>(23.2) | 22.8<br>(23.3) |
| 普通                 | 55.2<br>(42.1) | 52.0<br>(54.3) | 46.7<br>(55.6) | 62.8<br>(64.0) |
| 満足+普通              | 81.9<br>(76.5) | 77.7<br>(73.0) | 85.9<br>(78.8) | 85.6<br>(87.3) |
| 不満<br>(やや不満及び大変不満) | 18.1<br>(23.5) | 22.3<br>(27.0) | 14.1<br>(21.2) | 14.4<br>(12.7) |

かっこ書きは、平成19年度

いずれの地区も「満足及び普通」と回答した割合が、77%以上を占めており、入居者からは概ね評価は得られていると考える。

## 5 経費の縮減に関する事項

### (1) 県北地区

人件費等については、前年度と比較して2,562千円の経費縮減が図られ、維持修繕費等は3,784千円の経費縮減が図られた。これらは、人件費の縮減やエレベーター保守管理の一括発注等による縮減によるもので評価できる。

### (2) 県中地区

人件費等については、前年度と比較して3,286千円の増加となり、維持修繕費等は4,473千円の縮減が図られた。発注方式の見直しによる保守管理費の縮減は評価できる。

### (3) 会津地区

人件費等については、前年度と比較して1,067千円の縮減が図られ、維持修繕費等は635千円の増加となった。人件費等の縮減は評価できるものの、維持修繕費の増加については、前年度と比較して修繕件数が増加し、修繕費が高んだことによるものでやむを得ないものと判断する。

### (4) いわき地区

人件費等については、前年度と比較して2,952千円の増加となり、維持修繕費等も1,098千円の増加となった。維持修繕費の増加については、当該年度の修繕件数は前年度より減少しているものの、維持修繕費が高んだものが多かったことによるため、やむを得ないものと判断する。

【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

なし

## 3 管理運営のモニタリングについて(県)

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等                  |
|----------|-------|----|-------------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理体制、事業内容、県営住宅管理業務収支明細書       |
| 月例報告     |       | 12 | 維持修繕業務                        |
| 四半期報告    |       | 4  | 保守管理業務                        |
| 定期立入検査   |       | 3  | 募集、家賃徴収、維持修繕、保守管理、個人情報管理等     |
| 不定期立入検査  | ×     |    |                               |
| 事業報告書    |       | 1  | 事業報告書及び県営住宅管理業務収支明細書          |
| 外部委員等評価  |       | 1  | 指定管理者選定委員会において指定管理者制度導入の検証を実施 |
| その他      |       |    |                               |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

なし

## 4 平成21年度の実績(指定管理者)

20年度同様の取組を引き続き行い、適切な管理運営に努める。

|      |   |        |            |
|------|---|--------|------------|
| 施設名  | 福島県自然の家（相馬海浜自然の家・いわき海浜自然の家・郡山自然の家・会津自然の家） | 指定管理者名 | (財)福島県自然の家 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31                          | 担当課名   | 教育庁社会教育課   |

## 1 平成20年度の管理運営実績（指定管理者）

### 1 活動プログラムの開発

各施設がそれぞれの特色を十分に生かし、利用者のニーズにあった活動プログラムの開発・実施に努め、利用者に豊かな体験と感動を提供できるよう指導援助を行った。

また、利用団体のねらいに即した活動プログラム作成について、学校教育団体、社会教育団体それぞれに指導者の事前研修会を開催するなどにより、適切に相談に応じた。

### 2 特色を生かした主催事業の展開

幅広い利用者層を対象に各施設の特色を活かした創意と工夫のある魅力的な主催事業を実施することにより、体験活動を通して自然の家への理解が深まるよう努めた。

### 3 利用者の拡大とサービス向上

#### (1) 利用者の拡大

各施設間の連携体制を拡充した事業展開や、各地域の回覧板等を活用するなどの広報活動を行うことにより、新たな利用者の発掘に努めた。

また、各施設の独自性が現れるホームページの作成など、既存のものに対して適宜修正や改善を行った。

こうした取り組みの結果、当該年度は、4施設合計で過去最高の年間利用者数（200,744人）を記録することができた。

#### 利用者数の推移（延べ利用者数）

|     | 平成18年度   | 平成19年度   | 平成20年度   | 差（ - ） |
|-----|----------|----------|----------|--------|
| 相馬  | 34,130人  | 33,422人  | 38,687人  | 4,557人 |
| いわき | 77,371人  | 81,829人  | 76,309人  | 1,062人 |
| 郡山  | 35,113人  | 35,140人  | 39,488人  | 4,375人 |
| 会津  | 45,112人  | 43,639人  | 46,260人  | 1,148人 |
| 計   | 191,726人 | 194,030人 | 200,744人 | 9,018人 |

#### (2) サービスの向上

全職員が「いつも笑顔で素早い対応」を心がけるとともに、財団独自の取り組みとして、事業の自己評価の実施と、実施結果を各所の運営委員会において提示し検討してもらうなど、内部・外部評価を適切に行い、運営等の改善に努めた。

また、利用者のアンケート調査を参考に、サービスの向上や施設の改善等に努めた。

### 4 施設及び設備の維持管理

関係法令を遵守するとともに、施設設備全ての定期的な安全点検を実施し、潜在的な不具合や破損等の早期発見に努め、簡易補修等で改善できるものについては、職員による応急措置や外部発注などにより即時対応に努めた。

また、即時対応できないものについては速やかに県へ報告するとともに利用者に危険が及ばないよう対応した。

指定管理者である期間中はもちろん、期間終了後に予想される修繕必要箇所についても、県に対して計画的な要望を行うとともに、状況を報告した。

### 5 効率的な経費の執行

施設の管理運営にあたり、利用者の安全、利用者ニーズ、支援活動等のサービス水準の確保、施設の長期的な機能維持のため効率的な経費執行に努めた。

（指定管理委託料 572,198千円 546,849千円 25,349千円）

特に、利用者増（194,030人 200,744人 6,714人増）にともなう経費増圧力に加えて、原油価格の乱高下等による経費の大幅変動の影響をできる限り押さえるため、利用者にもこまめな消灯や節水をお願いするなど、光熱水費等の節減に努めた。

## 6 職員研修計画

各所において策定した職員研修計画に基づき、職員研修を計画的に実施し、自然の家職員としての資質と専門性を高め、利用者のニーズに対応できるよう努めた。

20年度研修（相馬の例）

- ・ PA（プロジェクトアドベンチャー）研修実施
- ・ 東北地区青少年教育施設協議会運営研究協議会参加 2名
- ・ AED講習会実施
- ・ 磯と干潟の生物研修会実施
- ・ 海釣り研修実施
- ・ スキー研修会実施

【平成20年に新たに取組んだ項目】

特記事項なし

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価（県）

### 1 活動プログラムの開発

各施設とも、利用団体の主体的な活動を最大限に支援するため、既存のプログラムにとらわれない利用団体のねらいに即したプログラム作成に努め、より効果的な活動が実施できるよう利用団体の活動支援及び助言を行っている。

### 2 特色を生かした主催事業の展開

それぞれの施設の特色や地域の立地条件などを活かした事業を展開し、事業実施後には所内で事後評価を行い次の事業に活かすなど、利用者の満足度の確保やリピーターの増などに努めている。

また、不登校児や障がい児等を対象とした「子どもの心交流サポート事業」（県委託事業）は、平成19年度で終了しているが、その成果が大変期待できることから、各所において自主的な事業として継続実施した。このことは、指定管理者として大いに評価できることである。

### 3 利用者の拡大とサービス向上

わかりやすい広報・PR資料や魅力的で見やすいHPの作成に努めるとともに、閑散期には、施設から学校や団体に出向いていく「出前講座」を実施し、利用者の拡大とサービスの向上に努めている。

利用者・利用団体を対象としたアンケートにより、活動プログラムや食事も含めた施設利用の満足度を調査しており、各施設とも改善すべき点については即時対応の意識のもと、できることから順次対応に努めている。

また、年に2回、地域や利用者の代表など、外部の有識者などで構成した運営委員会を開催し、運営に関する意見交換や検討を行っており、ここで出された意見は職員の研修の一端も担っている。

### 4 施設及び設備の維持管理

各施設とも広大な敷地面積を有しており、その中に活動の拠点となる施設や設備が点在しているため、関係法令の遵守はもとより、施設設備の定期的な安全点検を実施している。

また、必要に応じて臨時的に自主点検を行うなど、潜在的な不具合や破損等の早期発見に努め、事故防止を図っている。

### 5 効率的な経費の執行

平成20年度はこれまで以上に財政が厳しい状況であり、外部への再委託業務の方法の見直しによるコストの削減、事務経費などのさらなる節減などに努めるとともに、利用者にも協力の呼びかけを行っている。

### 6 職員研修計画

施設運営協議会が主催となり、施設職員を対象とした研修会を計画的に実施するなど、施設職員の資質向上を図っている。

また、3に記載したとおり、各所で開催している運営委員会も大変有意義な研修の場となっている。このほか、ふくしま自治研修センター、その他資質や能力向上のための研修に参加させるなど、職

員の研修機会を提供している。

【平成20年に新たに取組んだ項目の評価】

特記事項なし

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等   |
|----------|-------|----|--|
| 年度事業計画   |       | 1  | 管理体制、業務内容、管理運営目標達成のために取り組む具体的内容、業務に要する経費 等           |
| 月例報告     |       | 12 | 利用者数、利用料金収入実績 等                                      |
| 四半期報告    | ×     |    |  |
| 定期立入検査   |       | 1  | 監事監査   |
| 不定期立入検査  | ×     |    | 今年度は該当なし<br>平成19年度に財政的援助等団体の監査実施                     |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理業務の実施状況及び利用状況、利用料金の収入実績、管理運営目標の達成状況、業務に係る経費の収支状況 等 |
| 外部委員等評価  | ×     |    |  |
| その他      |       | 1  | 管理運営目標、情報公開及び個人情報の保護に係る実施状況                          |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

特記事項なし

4 平成21年度の実績（指定管理者）

特記事項なし

福島県自然の家は、平成21年4月1日より県直営に管理運営方法の見直しを行った。

|      |                  |        |               |
|------|------------------|--------|---------------|
| 施設名  | 福島県文化財センター白河館    | 指定管理者名 | (財)福島県文化振興事業団 |
| 指定期間 | H18.4.1～H21.3.31 | 担当課名   | 教育庁文化財課       |

## 1 平成20年度の管理運営実績(指定管理者)

### 1 利用者サービスの向上

- (1) 小中学校等の夏季休業期間中における毎日開館(年間開館日数311日 311日)
- (2) 体験学習事業の積極的な実施と利用者サービスの向上
- ア 常時体験型メニュー体験者数 21,729人(23,908人)
- イ 募集型メニュー等
- (ア) まほろん実技講座 21回 延べ 337人(58回、433人)
- (イ) まほろんイベント 9回 延べ 1,613人(10回、1,039人)
- (ウ) まほろん森の塾 8回 延べ 139人(9回、78人)
- (I) おでかけまほろん 20カ所 延べ 694人(20カ所、777人)

### 2 学校教育、生涯学習等の利用促進

- (1) 来館した学校、生涯学習関係団体数 212団体(181団体)
- (2) おでかけまほろんの実施 20カ所 延べ 694人(20カ所、777人)
- (3) 学校関係者、生涯学習関係者、市町村等の研修受講者数 682人(380人)

### 3 施設運営の効率化

- (1) 学校の夏季休業期間中における毎日開館
- (2) 電気、ガス使用量(対前年比電気使用量8.3%減、ガス使用量32.4%減)
- (3) 紙の使用減量化(対前年比19.3%減)
- (4) 研修事業における職員の講師への活用(68% 68%)による外部講師謝金等の節約
- (5) 管理運営に係る経費(事業費、人件費等)

| 平成17年度実績  | 平成19年度実績  | 平成20年度実績  | 差額(-)    |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 247,596千円 | 234,341千円 | 232,759千円 | 14,837千円 |

### 【平成20年度に新たに取組んだ項目】

生涯学習等の利用促進対策として、遺物等の出土地域にある生涯学習施設等において、その遺物を展示し、また体験学習も実施する「まるとまほろん」を試行した。

## 2 平成20年度の管理運営実績の評価(県)

平成20年度の年間入館者数は33,007人であり、前年度を下回ったものの、指定管理者制度を導入した平成18年度からは、同制度導入前である平成17年度の入館者数を上回っている。

| 平成17年度  | 平成18年度  | 平成19年度  | 平成20年度  |
|---------|---------|---------|---------|
| 30,446人 | 34,516人 | 34,235人 | 33,007人 |

### 1 利用者サービスの向上

小中学校等の夏季休業期間中は毎日開館し、来館者の来館機会を拡大していることは評価できる。

体験学習事業については、常時体験型メニューへの参加者の減少が見られたが、募集型メニュー等では、まほろんイベントの内容を一部見直し、参加者数の増加に寄与したものと考えられる。

### 2 学校教育、生涯学習等の利用促進

おでかけまほろんは、学校等からの実施要望が多い事業であり、平成20年度も前年度と同数の回数を実施し、多くの児童等に文化財に親しむ機会を提供できたことは評価できる。

研修参加者数については、前年度よりも大幅に増加し、以前よりも更に参加希望者のニーズに対応した研修の実施が図られたものと考えられる。

### 3 施設運営の効率化

電気、ガスは空調設備にも使用しているが、平成20年度は保管している遺物に悪影響が出ないように配慮しながら空調の稼働を節約し、前年度よりも大幅な使用量削減を達成した点は評価できる。

事業費、人件費等については、平成19年度よりも経費が縮減されており、管理運営に係る経費の節減に努めたことが認められる。



【平成20年度に新たに取組んだ項目の評価】

白河市近辺を対象とするだけでなく、全県を視野に入れた事業展開を図ったことは評価できる。

3 管理運営のモニタリングについて（県）

| モニタリング項目 | 実施の有無 | 回数 | 報告要求項目・検査目的等               |
|----------|-------|----|----------------------------|
| 年度事業計画   |       | 1  | 年度計画の指導及び確認を行った。           |
| 月例報告     |       | 12 | 事業実施状況、利用者数等の報告を受け、指導を行った。 |
| 四半期報告    | ×     | 0  |                            |
| 定期立入検査   | ×     | 0  |                            |
| 不定期立入検査  |       | 1  | 施設管理状況の確認を行った。             |
| 事業報告書    |       | 1  | 管理運営全般、収支決算状況の確認を行った。      |
| 外部委員等評価  |       | 2  | 福島県文化財センター白河館運営協議会を2回実施した。 |
| その他      |       |    |                            |

【年度内の主な改善等指示事項及びその対応状況】

なし。

4 平成21年度の取組み（指定管理者）

1 利用者サービスの向上

魅力があり、分かりやすい企画展示を開催するとともに、白河地域外においても、おでかけまほろん、まほろん出前講座、まるごとまほろん等の館外事業を積極的に実施し、より文化財に親しむ機会の拡充を図る。

事業計画の達成状況の点検、評価を行い、また、利用者アンケートを活かして、利用者満足度の更なる向上を目指す。

白河地域の各団体に県文化財センター白河館の活動内容等を説明し、また県文化財センター白河館が地域づくり諸活動に果たし得る役割や連携方策について意見をいただく地域懇談会を開催し、地域と連携した施設運営の推進に役立てる。

2 学校教育・生涯学習等による施設利用の促進

「小中学校における『まほろん』利用の手引き」により、各学校等に施設利用方法について周知するとともに、施設利用の活用事例を集積して、各学校等のニーズに応えられる活用法の開発に努める。

近隣の教育文化施設や生涯学習施設との連携を推進し、相互の利用者数増加を図る。

3 施設運営の効率化

引き続き、省資源、省エネルギーに努め、管理運営に係る経費の節減に努める。